活動年鑑 4

2B(27期)(2008年6月～2009年5月)

社団法人日本技術士会
青年技術士交流実行委員会

contents

祝辞
(社)日本技術士会会長
高橋　修
1

H20年度活動報告
青年技術士交流実行委員会
委員長
田村裕美
2

50周年
記念大会報告
4

寄稿
上下水道部会長
氷上 克一
10

寄稿
北海道支部
椿谷 敏夫
11

寄稿
中部支部
濱田 常雄
13

ｼﾝｸﾀﾝｸ活動報告
15

例会活動報告
18

支部交流活動報告
39

国際交流活動報告
51

その他の活動
69

メンバー紹介
74

表紙デザイン:井口慎也

祝　辞

（社）日本技術士会　会長
高　橋　　修

青年技術士交流実行委員会が、その前身である青年技術士懇談会発足以来、めでたく５０周年を迎えました。まことにおめでとうございます。永年にわたり青年技術士交流実行委員会（青年委員会）を支えてこられた歴代の委員長、委員の方々のご努力に対し、深い敬意を表すると共に、心からお祝いを申し上げます。

老人サロンとも言われている日本技術士会に、青年委員会は常に若さと情熱に満ちた活動を通じて新風を吹き込んできました。技術部門を越えて若手技術士が集まり、さらには修習技術者をも取り込み、活発な活動を全国規模で展開しております。

平成１２年の技術士法改定により、それまで技術士受験資格として７年以上の実務経験が必要とされてきましたが、これが４年に短縮されました。また、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定コースの修了者には技術士一次試験免除の特典が与えられることになりました。JABEE 認定コース修了者は平成１９年度から技術士二次試験の受験資格を得て、技術士資格試験に挑戦する人が出てきております。昨年度（平成２０年度）初めて JABEE 修了者から、めでたく第一号の技術士二次試験合格者が誕生しました。今後、増加の一途をたどることが期待されます。技術士二次試験合格者の平均年齢は４０歳前後で推移しております。今後、早い時期にこれを３５歳前後としたいと願っております。青年委員会には修習技術者への IPD（初期専門能力開発）の機会提供を通して、若手技術士を飛躍的に増やす役割を担っていただきたいと思っております。

国際化が進展する世界で、技術士は日本で唯一国際資格として認められている国家資格です。世界の技術者との交流を通して、日本の優れた技術を世界に広める努力が必要です。と同時に、世界の優れた技術に接して自らの技術に厚みを増すことも必要です。青年委員会では技術士の国際交流にも積極的で、すでに大きな成果を挙げてきておりますが、今後益々国際化を進める上で重要な役割を果たしていただきたいものです。日本技術士会では、多くの組織が独自にばらばらに行ってきた技術士の国際交流活動を今年から一本化し、国際委員会を立ち上げることが決定しました。青年委員会の支援のもと、国際委員会の活動を活発化していきたいと考えています。

最後に、若手技術士に次の言葉を贈ります。”Is Engineering a Calling?　Or, just a Job.”
（技術者であることは、神が自分に与えた天職なのか、それとも単なる飯の種か）

以上

青年技術士交流実行委員会　2008年度事業報告

青年技術士交流実行委員会　委員長　田村裕美

青年技術士交流実行委員会（以下青年委員会と記載）とは、政策委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員、技術士会会員歴一年未満の技術士である委員補佐A、技術士補・修習技術者等、準会員からなる担当委員・委員補佐Bにより構成されています。

青年委員会の所掌事項としては、政策委員会からの依頼事項に対しての対応、技術士会会員に向けての研鑽事業の企画・運営、各支部における交流の活性化、国際交流の実施などがあります。

2008年度の主な活動を下記にまとめます。

1.青年技術士組織設立50周年記念大会

日本技術士会における青年技術士組織設立50周年を機に、平成21年2月1日、日本科学未来館にて記念大会を開催し、併せて50周年記念誌の企画・編集し発刊しました。

2.若手技術者の国際交流活動

４つの二カ国間交流とASEAN諸国若手技術士の国際交流となるYEAFEOへの参加を実施しました。

二カ国間交流の内容は、オーストラリア青年技術組織委員長招聘に伴う講演及び交流会、香港工程師学会及び香港土木技術者協会の青年技術者との交流を目的とした香港訪問、日韓会議への参画、マレーシア女性技術者来日に伴う交流会の実施となります。

3.若手技術者向け研鑽事業

講演・勉強会を６回、新宿御苑ファミリー見学会を１回、交流会（スポーツ交流含む）を６回、および国際交流成果発表会をそれぞれ開催しました。

フットサル・サッカーによるスポーツ交流やプレゼンテーションコンテスト例会は新たな試みであり、非会員及び関東地区以外の会員の参加など、従来の参加層の枠を広げる結果となりました。

4.各支部青年技術士組織との交流

本支部交流会議の開催（2回）、青年委員会の活動や技術士会本部各組織への参画状況などを記したニュースレターの各青年支部へ毎月発信（11月より）、および全国大会における青年分科会や交流会への参加と各青年支部の活動をまとめた冊子の発行協力をそれぞれ行いました。

本年は日韓会議やそれに併せる形で開催された日韓サッカー交流試合の開催地が新潟だったこともあってか、特に北陸青年支部との交流が盛んとなり、交流試合に向けての合同練習（群馬、神奈川）の実施や、12月に開催の国際交流成果発表会ではネット中継によって日韓

会議についての報告が行われました。

5.部会及び他委員会との協働

4月に特別例会として『1・2次試験合格歓迎会及び青年技術士展』を開催し、「技術士の活かし方」をテーマに独立技術士と企業内技術士による講演とブース出展を実施しました。ブースは各部会、委員会協力の元に、各組織の青年層に説明要員として出席を依頼し、参加者との直接対話を目的としたコーナーを複数設置した初の試みとなりました。

また、昨年と同様に11月には修習技術者支援実行委員会との共催で『修習技術者研修セミナー』を、1月に行われました『技術士第一次合格者歓迎会/JABEE修了見込者ガイダンス』においてはパネルディスカッションを企画・実施しました。

広報委員会が企画・発刊しました『月刊PE500号記念誌』には、青年層執筆者依頼や支部を含む青年技術士座談会メンバー構成の企画、小学生を対象に技術士紹介資料として「技術士さんって？」の企画・編集に協力いたしました。

6.優先適用の承認

平成21年5月7日の理事会にて、「青年技術士交流実行委員会の運営に関わる優先規則の制定について」が政策委員会より審議要請が行われ、審議の結果、原案通り承認されました。これにより、正会員歴1年未満の委員、準会員からの委員登用および「委員補佐」役職の正式設置が認められ、活動責任の明確化、各人の意識・意欲の高揚と更なる貢献および良質な人材の早期活用による委員会活動の活性化等の促進が期待されます。

委員補佐については、青年委員会委員長が準会員の中から推薦し、青年委員会を管轄する常設委員会における承認の上、当該常設委員会委員長が委嘱することとしました。

この規則は、平成21年5月8日より施行されます。

7. 委員会の運営・企画・管理および広報活動

上記の活動を企画・実施するため、毎月定例会議（運営委員会）を開催しており、インターネットサービス電話のskypeを利用しての会議参加も試験的に実施しております。サーバーを利用して会議・例会への出欠管理や意見交換を行い、また議事録・資料等をデータベースにて保存管理することで運営の利便性や継続性、活性化を図っております。

広報活動として、青年委員会活動をより深く身近に理解していただくべく2008年度活動年鑑を製作し、支部、部会、関連委員会等に配布いたす予定です。また内外に向けて情報を発信すべく青年委員会のホームページの充実化を図る一方、活動毎のブログを新規運営しております。また国際交流活動の一環として上記活動年間、ホームページに加えて支部共通パンフレットおよび50周年記念誌の英語化にも着手しております。

以上

青年技術士交流実行委員会設立 50 周年記念大会　実施報告

青年技術士交流実行委員会　斉藤稔(機械部門)

青年技術士交流実行委員会は、青年技術士懇談会から今年で設立 50 周年を迎えた。

これを機に、これまでの青年技術士の活動を振り返り、新たな時代に向かうべく、記念大会を実施した。

１．概要

テーマ：「技術の継承と未来への警鐘」～先達に学ぶこと、後世に伝えること～

日時：平成 21 年 2 月 1 日（日）

場所：日本科学未来館　講演会：みらい CAN ホール　懇親会：未来館会議室 3

主催：青年技術士交流実行委員会

担当：斉藤稔、仁田晃人

参加者：85 名（講演会)、55 名（懇親会）

来賓：1 名　高橋修氏

講演者：2 名　米田完氏、黒澤豊樹氏

討論者・コーディネータ：6 名　氷上克一氏、成川薫氏、中村弘氏、中嶋秀朗氏、奥田雅大氏、前田秀一氏

青年委員会メンバー：22 名

合計：114 名（講演会)、84 名（懇親会）

２．内容

今回実施した、青年技術士交流実行委員会設立５０周年記念大会は、委員長が田村裕美に代わった体制において、最も大きなイベントであった。

青年委員会の節目でもあり、これまでの諸先輩方の功績に感謝するとともに、これからの世代に対してのアピールと、青年委員会らしい新しい取り組みなど、特徴的なイベントを目指した。

イベントの特徴を出すために、会場にはこだわった。日本科学未来館の大ホールを借りる事が出来、雰囲気は抜群だった。

委員会の節目を飾る企画としては、記念誌の発行を行った。青年委員会の５０年の歩みを振り返るにあたり、歴代の青技懇代表を探し出し、執筆依頼やコメントを集めた。また、昔の写真や資料を提供いただき、記念誌の作成にご協力を頂いた。

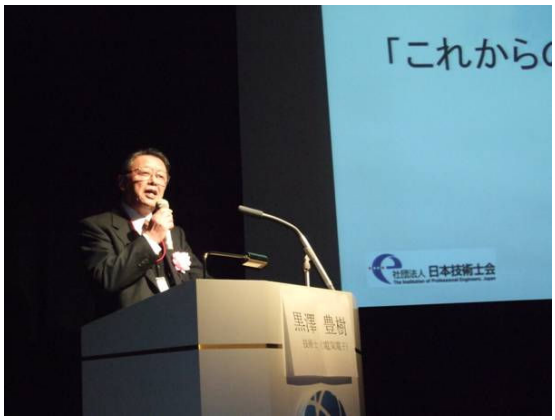
この活動によって、これまで希薄だった大先輩との繋がりを強める事が出来、資料としても価値の高い記念誌を纏める事ができた。

また、記念誌作成で収集した資料を活用し、スライドショーとして編集した。委員会５０年の歩みを振り返るにあたり、クラッシック音楽のＢＧＭを被せて、大会冒頭に上映した。

遅れて会場入りする方の為の配慮として企画した内容だが、委員会としては新たな取り組みであり、本イベントの特徴の一つである。

講演会は、青技懇ＯＢ、技術士会の会員、若手技術者、学生と幅広い層に訴えかける為、千葉

工大の米田氏に、今人気のあるロボット開発を通した若手教育についてご講演頂き、6代目青技懇代表の黒澤氏に、これまでの技術士経験から、これからのあるべき姿についてご講演頂いた。



対象が広いために、テーマを絞る事が難しい状態であったにも関らず、参加者が聞き入る講演内容であった。

講演の後､5人の技術士による公開討論会を行った。これも通常のパネルディスカッションとは一線を画すため、工夫を凝らした。

討論者の世代を３世代に分け、テーマに対する討論者のお互いの意見を発展させていく事により、世代間の考え方の違いを浮き彫りにした。

時代の変化による技術の問題点を抽出し、これからの世代がどう対応すべきか考えていただくきっかけを提供できたと思う。また、討論の進行が容易に理解できるよう、スクリーンにマインドマップの表示を試みた。

これも技術環境の変化による対応であり、新しい試みであった。

懇親会は、東京タワーやレインボーブリッジの夜景が堪能できる、日本科学未来館の懇親会場で実施した。諸先輩方は、懐かしい仲間との再開を楽しんで頂くと共に、若手と交流する機会が持てて良かったとの声も聞かれた。

若手も、諸先輩方にご指導を頂くとともに、同世代の参加者同士刺激しあう事ができたと思う。

３．所感

現在の青年委員会は、メンバーが大幅に若返っている。委員会の運営という事では、まだ経験が浅い体制だが、今回のイベント運営を通して、貴重な経験が出来たと思う。またこれまでのやり方にとらわれない斬新なアイデアを出していけると思う。以上

青年技術士交流実行委員会 50 周年に寄せて

50 周年記念大会の運営に関わった青年委員会スタッフおよびボランティアの方の感想を，一言ずつ紹介します。

（青年委員会スタッフより）

全体の後方支援と外交をしました。50 周年という節目の年に籍があることの幸運を感じ、準備を一緒に進めたメンバーの皆さんに深く感謝しています。 この記念大会・記念冊子を通じて、技術士会における青年組織への期待と、応援者の多さをヒシヒシと感じました。これからも愛される委員会であり続けましょう。 （田村　裕美）
当日の司会進行係を担当しました。拙い司会でしたが、大きなトラブルもなく終えることができてホッとしています。これまで青年委員会に貢献いただいた OB の皆さんに感謝したいです。また、スタッフの皆さんの献身的な貢献および気転の利いた対応により、50 周年イベントを成功させることができたと思います。現場で各自が正しく判断して適切な行動を取ることができたことは、青年委員会の組織力が向上した証拠であると思います。皆さん、本当にありがとうございました。 （松本正人／司会進行担当）
舞台袖で PC3 台（正・副・予備）の切り替え操作を担当しました。確か本番 3 日前くらいの思いつきで，討論内容をその場でマインドマップにまとめていくことも試しました。さすが技術士会選りすぐりの方々で，言葉聞きやすく，論旨分かり易く，私も楽しく作業できました。行事も盛況でした。取りまとめの斎藤さんと仁田さん，本当にお疲れさま。 （中嶋　幸宏／マインドマッパー）
当日の会場案内などを担当しました。参加者の年齢は 70 歳以上（！）の開きがありそうでしたが、それぞれ何かを持ち帰っていただけたことと思います。50 年間に多くの方々のご支援があって、立派な催しを実現できたことは本当に喜ばしいことと思います。jubilee に居合わせられて幸運でした。できれば 100 周年も参加したいモノダ！ （倉井 真里／広報および展示担当）
イベント当日だけではなく、準備にも参加できず申し訳ございませんでした。50 年という長い年月を経て、大先輩の年代から続いてきたこの会にはただただ畏まるばかりです。これからも、多くの若い技術者にエネルギーを与えるような場であってほしいと思います。 （内藤　竜治）

イベントのパネルディスカッションでは，パネラーを担当しました．広い世代の技術士の方々と，日本の未来を担う科学技術についてディスカッションすることができました．このような機会は，得ようとしてもなかなか得られない貴重な機会であり，青年技術士実行委員会の歴史と奥の深さを感じました．

（中嶋　秀朗／パネルディスカッション担当）

記念誌の編集に参加させて頂きました。また、スライドショー作成と、当日には舞台セットを担当しました。今回の活動への参加により、日本技術士会および青技懇の歴史に触れることが出来ました。また、先輩方の偉大な足跡に触れ、伝統の重みと継承の重要さを感じました。この様な機会を与えて頂いた皆様に感謝します。

（根本　英俊／記念誌担当）

50 周年記念誌と、当日の受付・会計を担当しました。校正、入稿、印刷仕上がりとすべてが綱渡りだった記念誌。誰のおかげといって、私のせいでそうなったのですが、たっぷりと冷や汗をかいてもらいました。委員長に。それでも、この記念誌、執筆者と担当者の熱意の賜物、我が委員会に対する想いが詰まっています。本当にすばらしいものになりました。さて、次の記念誌の編集長様、50 周年記念誌作成者として一筆啓上いたしましょう。いい汗をかけますよ。

（松嶋　健太／記念誌・会計担当）

長い歴史のある当会の節目となる重要な行事にも関わらず、私用があって参加できず、ただ会場下見という形で協力できただけでした。貴重な機会を逃したのが残念です。

（今野　明）

イベントの会計取りまとめを担当しました。会計担当は初めての経験で終始気が抜けませんでしたが、参加者管理・会場準備等各メンバーの連携により、収支コントロールをスムーズにこなすことができました。当日は OB・OG の皆様との会話を通して、50 年の歴史と、その歴史を背負いながら活動していく責任感を感じました。

（石関　学／会計担当）

５０周年記念大会では、広報（松江での全国大会で配布するチラシ、フライヤーの作成、ポスター原案作成、案内メールの送信、出席者管理、当日受付）を担当させて頂きました。青年技術士交流実行委員会メンバーになって最初の大作業にも関わらず、広報グループ長に立候補して、結構先走った行動で皆様に多くのご迷惑をおかけ致しました。当日は、「寝坊で 2 時間遅刻」といった大失態も犯してしまい、深く反省をしております。しかし、周りのスタッフのご支援、ご協力を賜り、５０周年記念が成功裏に成し遂げることが出来ました。青年委員の皆様、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします

（渡邊弘毅／広報担当）

総括を担当しました。委員会でのプロジェクト運営は、顔を会わせて打ち合わせをする機会が少ないところに難しさがあると思います。それだけに普段からお互いの信頼関係を構築していくことが重要だと感じています。言葉足らずな事が多かったと思いますが、委員会や外部協力者のみんなが協力して成功に導いてくれました。心から感謝です。

（斉藤　稔／総括）

５０周年記念大会では総括を担当しました。青年委員会半世紀を記念した大イベントに携われたことは、大変光栄であると同時に、感謝したいと思います。一昨年前から既に案として当該イベントは計画されてはいましたが、実際に活動し始めたのは８月で、開催日は翌年２月・・・。半年で全てを調整し、進めることが出来たのは、委員長をはじめ、総括グループ代表の斉藤さんの大功労と青年委員会メンバーの協力があったからだと思います。あと５０年後の１００周年記念大会にはどうなっているのか見てみたいですね。

（仁田晃人／総括）

５０周年記念誌の作成作業（青年技術士懇談会第８期例会・活動記録まとめ、５０周年史寄稿整理)、スライドショーの作成（コンテンツの整理やスライド時間の調整など）を担当させて頂きました。青年技術士交流実行委員会メンバーになってまだ間もない最初の作業だったこともあり、分からないことだらけでしたが、スタッフの温かいご支援を支えに無事やり遂げることが出来ました。残念だったことは、前日に尿管結石を患い、当日欠席してしまい、自分の職務（タイムキーパー、カギの受け取り・保管・返却、会場準備など）を全うできなかったことです。スタッフの皆さん、色々ありましたが、どうもありがとうございました。

（宮本忠博）

当日参加できませんでしたが、青年委員会らしい会場で内容だったイベントが成功したことは半世紀の区切りとしてとても良かったと思います。日本人は一般的に区切りや節目を大切にします。その節目の年に委員補佐をさせていただけたことは私の人生にとって有意義なことであったと感じています。これからも飛躍していく青年委員会であることを祈っております。

（栁澤　剛）

当日配布したパンフレットのとりまとめを担当致しました。仕事の方が繁忙期でメールチェックもままならず、スタッフの皆さんをやきもきさせてしまいました。ごめんなさい。
当日、たくさんの OB の皆様方とお会いすることができ、“歴史”と“想い”の深さを実感することができました。この節目にスタッフとして参加させて頂けたことに、心より感謝致します。

（西角井 造／パンフレット担当）

展示を担当しました。展示を見て頂きながら、色々な方と接する事が出来ました。会話のきっかけとして過去の活動の展示がこんなに役立つ物かと感じました。
過去を知り、未来を考える。50 周年イベントのテーマそのものを、先輩方から肌をとして感じさせて頂けたひとときでした。的を絞った活動の記録は、後の人たちにも活用してもらえるように感じています。これからも微力ではありますが、協力させて頂けたらと思います。

（町野　素久／展示担当）

カメラ係を担当しました。講演を聴くのに夢中になってしまいましたが多くの思い出に残る写真をとることが。また、懇親会の乾杯の音頭では最初とても緊張しましたが、懇親会のいいスタートを切ることができて大変嬉しく思いました。

（渡辺　春菜／カメラ担当）

５０周年記念誌では年表の作成・編集を、イベントでは世代間討論会の企画に携わり、当日は会場案内およびセッティング関連を担当しました。年表は、安請け合いしたのが運のツキ。膨大な資料に埋もれ、その上ファイル破損のアクシデントに見舞われる激闘ではありましたが「形に残るもの」に携われたのは何にも代えがたい貴重な経験でした。

（山地　真吾／記念誌・運営担当）

（ボランティアとして協力いただいた皆さん）

私は、当日ボランティアとして、舞台のセッティングを担当しました。自然、講演、討論会は舞台裏で聴くことになりました。青技懇が 50 年前にｽﾀｰﾄし、実行委員会となり、そして現在に至るまでの経緯、体験談などを聴くことができました。先達の方々が切り拓き構築されてきた土台の上に、私たちは置かれていると感じました。また、この土台に胡坐をかくことなく、将来、私も継承できるだけの技術を身につけたいと思います。

（竹市　雄作／舞台担当）

受け付けを担当しました。50 周年という節目に参加することができたことに嬉しく思っています。知らない人ばかりかと思いきや、意外と知っている顔がちらほらと居て、楽しかったです。改めて様々な技術があるということと、諸先輩方の繋がりを実感した 1 日でした。

（二村　有貴子／受付担当）

青年技術士に期待すること

上下水道部会長

氷上克一

われわれ人間の知恵としてさまざまなことが古くから継承されて来た。天体現象，気象現象，農業，土木工事等自然現象から経験に至るまで多くのことが語り継がれ行われて来た。しかし，科学技術が体系づけられたのはそれほど昔ではない。天動説が正当とされていた時代は1600年代の初めまでであり，今では誰もそんなことは信じていない。当時のヨーロッパ社会は法王の権力が強く，科学的真実が宗教によって捻じ曲げられていた時代であったことにも影響する。錬金術が真面目に考えられていた時代であるが，そのおかげで化学が進歩していったともいえる。私が係わっている水の世界も，ギリシャの哲学者アリストテレスが紀元前5世紀に提唱した４元素の一つに水が入っていてそのことが1789年にフランスのラボアジェが「化学原論」で異論を唱えるまで続いた。

近・現代は科学的手法も進歩し，科学技術に関しては再現性のある手法によって証明された事実に基づいてさまざまな論議がなされている。しかし，時として再現性のない経験論的な論拠によって議論を展開しようとする人がいる。以前会誌「技術士」のうめくさとして「雨のつぶやき」という雑文をものしたことがある。その中に，雨粒がどんな形状であるかにふれたところがある。絵本やその他のイラストでは雨粒は涙型に描かれているのが多い気がする。しかし，雨粒を超高速度写真で撮った映像を見ると球を下からつぶしたいわゆる饅頭型になっている。水滴は表面張力によって球形をしているが天から落下するので空気抵抗で下部はつぶれて扁平になる。われわれは日常的な思い込みで物事を判断し，それが正しいと信じてしまうことがままある。そのような事例は周りにいくらでも転がっている。たとえば，私が以前調査した東京都内の河川のうち，呑川というのがある。この川は東京の城南地区を流れる二級河川で世田谷の桜新町から東京湾の羽田に流れている。普通，川は川上から川下に流れている。ところがこの川は感潮河川であるので，河口に近いところでは海の満潮時には川下から川上へ流れる。川は常に川上から川下へ流れるとは限らないのである。技術士は目先の事象に惑わされないで，事実をしっかりと見てその原因がどこにあるかをきちんと見極めるように努めて欲しい。自分で検証できることは自分で行えばよいのだが，できないこともたくさんある。その時には何が本当かを判断できる知識が要求される。そのために基礎知識を養うことが必要である。基礎知識の上に立ってさまざまな現象を観察していると，その本質が見えてきて如何に判断すべきかがわかると思う。

時代や環境条件の違いがあるが，一般に若い人は経験が少ない分だけ，経験に邪魔されないで柔軟な発想ができるのではないかと思う。流体力学のダニエル・ベルヌーイが「ベルヌーイの定理」を発表したのが1738年で彼が38歳の時である。日本人で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士は当時42歳であった。今でも世界的な業績を上げている若い学者や研究者がいると思うが，青年技術士は若さを十分に活用して正しい判断によって世の中の現象に対処してほしい。私の理解している学者や研究者はある現象を理論的に解明したり理由づけをするが，実戦に結び付けることが不得手であると思う。技術士は知識に基づいて理論解明し，それを利用するところまでできる技術者だと思う。現在はインターネットの発達のおかげで，地球が狭くなり科学技術に関しては国境がなくなっている。ヨーロッパで発表された新しい技術は，その日のうちに世界中が知るような時代である。でも，あせらず地道な活動が結局よい成果につながる。難しい理論を駆使する前に基本的な理論や知識によって課題に向合い，行うべき行動を決めて欲しいと思う。

サブスタンスとロジスティックス　～技術士会に期待するロジの思考～

青年実行委員会　委員
北海道支部　椿谷敏雄

このたび青年実行委員会を卒業いたします。平成 13 年度に北海道支部の青年技術士協議会会長に就任以降、全国の各支部の皆さま方には本当にお世話になりました。道支部の会長時代を思い返せば、「融合と発信」をテーマにした第１期。「発展と創造」をテーマに続投した第２期目。特に第２期の平成 16 年度に主催した全国技術士会（北海道大会）では、全国各支部の青年部の有志の方々と交流を深めることができました。そして、この北海道大会が呼び水となり、後に続く各地の全国大会での交流の足跡を残したことは、大きな財産と喜びとなっています。そこで、御礼を込めて、“技術士会への期待“について私が最近感じていることを述べさせていただきます。

1. 技術士会への期待

技術士会に期待することといえば、やはり技術士資格の認知度を上げてもらうことでしょうか。そのためには、技術士会としての活動や技術士資格を活用した制度設計を実現することでしょう。

思いつくことを列記すれば、技術士会としての活動としては、①社会的な提言を行うための技術士会内のプロジェクトチームの発足（例えば、地球温暖化や感染症対策など社会のトピックスに対する技術的提言）、あるいは②客観的な第三者意見が求められる場面（例えば、アセスメントや公共事業における技術的評価や監査等）での技術士会としての事業の受託などです。また、技術士資格の活用の例としては、③技術分野における審議委員や審査委員への就任要件として技術士資格を活用することなどです。さて、こうした技術士資格に関連する事業化や資格要件化の実現にはどうしたらよいのでしょうか。

2. 技術士会に感じる漠然とした物足りなさ

実は、私は以前から技術士会の活動には何か漠然とした物足りなさを感じていました。あくまでも、漠然とした思いです。この物足りなさは、技術士会が公益法人としてより社会的な活動を求められ、“社会貢献”という言葉を用いはじめた時から抱いていたものです。たしかに社会貢献活動により、結果的に技術士という存在が少しずつ広がっていくでしょう。しかし、“社会貢献”に続く次の一歩が踏み出せていないのではないか、という漠然とした物足りなさを感じるのです。はたして意識すべきは“社会貢献”だけだったか、と。

3. サブスタンスとロジスティックス

話しは変わりますが、ここ数年私は気になった記事をスクラップしたり、本の一節をメモったりしています。時々それらを眺め返してみるのですが、ここ 1 年分を久しぶりに眺めていると、ある本の一説から引用したメモに目が留まりました。

「役所の会議にはロジとサブがある。ロジはロジスティックスのことで、経営学では物資の総合管理という意味合いで用いられる。要は会議のスケジュール設定、課題の設定、参加者の選定など、意志決定に至るまでのプロセスのデザインである。一方、サブはサブスタンスの略で、議論や意志決定される内容、中身のこと。一般にはロジよりサブが重要だと思われがちだが、そうではない。どんな日程で議事を何にするかというロジが極めて重要であり、アジェンダ設定がで

きあがればおのずとサブは決まってくる。」（「経済財政諮問会議の戦い」より　大田弘子）

たしかに、政策の分野にはこのサブスタンスとロジスティックスの２つの面があります。

サブスタンスは、検討する中身、提案する内容そのものであり、いかに理論的な思考、明快な論旨を経て、自明な結論に結びついているか、です。提案する内容が飛躍していたり思い込みが強すぎたりすれば説得力もなくなります。私たち技術士にとっては、特にこのサブスタンスが重要でしょう。まさに“技術士の売り”がサブスタンスに表れるともいえます。

しかし、物事を決めていくためには、議事の議案や日程、そのための後方支援といったロジスティックスが極めて重要になります。この“ロジ”、すなわち物事の決め方をマネジメントしていくことについては、どちらかといえば技術士にとって不得意な世界なのではないでしょうか。

前述した技術士会への期待＝技術士資格を事業制度に組み込むことは、まさに制度設計といえます。制度設計するとうことは何らかの手続きにより政策的な意思決定を必要とします。そして、政策的な意志決定のためには政策参加が不可欠となります。であればこそ、制度設計の実現にはどのようにシナリオを組み立てて、どのように実行していくのかといった『ロジスティックス』の思考が鍵を握るのではないか。私が技術士会に対して感じた物足りなさは、社会貢献の次の一歩が見えないことでしたが、目に留めたメモの“ロジの思考”こそが、漠然とした物足りなさを的確に表わす言葉だったのかも知れません。

４．技術士資格の制度設計はロジの思考で

私は、これまで２０年間、地方自治体職員としてまがりなりにも政策決定に関わってきました。若い時（大志を抱いていた時）は「正しい政策を判断するためには確かな技術や知識が必要」と思っていました。しかし、実際の政策決定の場においては理論的な判断のみしているわけでも、正しいことを検証しているわけでもありません。そして、関与する団体が大きいほど、反対する人間が多いほど、足して２で割る妥協決着の傾向が顕著になります。ある時（大人になった時）、本の引用ですが「政策は正しいか否かではなく、その正当性が問われるのみである」という結論に達しました。これは政策を卑下しているのではなく、これこそが政策決定＝多様な価値観や利害関係を持つ人間が集まった時の意志決定＝極めて人間くさい思惑が錯綜した結果たどりつく組織の意志決定のプロセス＝なのだ、と腑に落ちたものです。政策的な意思決定とは、人と組織を相手にしながらの時には泥臭く、時には人間的なプロセスで決められていくものなのです。

さて、技術士資格の制度化についての“ロジ”を問われると、どういう思考をしましょうか。多くの人を説得しながら理解者や仲間を増やすことも重要ですが、すぐにその行動をとることには危険を感じます。まずは負の利害関係にある反対者を明確に見つけ出すことから始めることでしょうか。例えば、学識者や博士の集まりである学会や他の技術系の資格の団体など。そして、その反対団体を１つ１つ見極めていくこと。そのためにはその反対者の気持ちになって、彼らが何を求めているのか、こちらが何を譲りどこを守るのか、賛同してもう妥協点はどこにあるのか、相手の弱みはどこにあるのかを考え、そして武器となるカードをいくつか用意した上で…、それもきわめて人間くさく…。

とかなんとか小難しいことを言いましたが、そうはいってもやっぱり技術士会は、肩肘張らない情報交換の場、社会貢献のフィールドとして存在する方が良いのかも知れませんね。

寄稿

中部青年技術士会の思い出

中部青年技術士会　前副会長
(青年技術士交流実行会　前委員)
濱田常雄　(建設部門)

１．はじめに

各支部の青年技術士会の皆さんには、大変お世話になりましたが、私は、この平成 20 年度にて卒業することになりました。年を取れば誰でも迎えることですが、いざ自分のこととなると何となく寂しいものです。

皆さんと共にいろいろな活動に参加出来たことは、とても楽しい思い出として残っています。

また、中部青年技術士会の 20 周年記念例会では、全国からご参加いただき、ありがとうございました。懇親会での皆様のはじけた顔、変身した姿が思い浮かびます。

２．中部青年技術士会の出会い

私は、平成 12 年 2 月に技術士に合格し、その年（平成 13 年度）に技術士会へ入会するとともに中部青年技術士会をはじめとする支部の活動に参加するようになりました。入会した頃は、大先輩の方々ばかりで正直ちょっと怖いイメージがありました。しかし、今ではその逆で私が若手の方々から見ていろいろな面（顔）から怖いイメージを持たれているようです。

３．中部青年技術士会を振り返り

私が、中部青年技術士会に入会した平成 13 年は、降簱達生氏が第６代目の会長でした。いつも「元気ですかー！」と叫んでいるような印象が残っているとても明るく行動力のある会長でした。強いリーダーシップを発揮して会員増員と活気ある活動を行うきっかけとなった時期でした。特に、降簱会長をはじめ独立系技術士の方々が役員の中心となり、２ヵ月に１回程度のペースで例会が開催されました。これは、現在でも続いている活動スケジュールとなって引き継がれています。そして、もう一つの伝統行事として当会の元気パワーの一番の源ともなった例会後の懇親会がこの頃より定着し、現在に至っています。これが、参加の最大の楽しみでもありましたが、自分自身のイメージを変える最大の原因でもあったと分析します。

２年目の平成 14 年 9 月には、岐阜県岐阜市において第 29 回の全国大会が開催されるということで、何がなんだかわからないままにスタッフの一員として準備のお手伝いをさせていただくこととなりました。この大会で印象に残っていることは、大会シンポジウムの最後に 10 分という短い時間でしたが、ステージの真ん中に立ち、「私達の想定する 2020 年の技術者の姿、そして、2020 年を生きる子供達」というテーマでプレゼンテーションを行ったことでした。何千人もの前でスピーチできたことは、とても良い経験になりました。この頃は、まだまだ素直な青年だったように思います。そして、ちょうどこの年から当会の副会長を仰せつかり、昨年までの７年間ずっとこの席に居座り続けていました。当会の副会長は、２人制であったため、１人は正の副会長として会長をサポートする役目、もう１人はどちらかいうと例会以外の懇親会などの盛り立て役でした。もちろん、私は、後者の役割となり、なにやら悪いイメージの始まりでもありました。

平成 15, 16 年は、岡本芳樹氏が第７代目の会長として会を盛り立てていただきました。とても前向きに物事を考え、会全体を引っ張ってくれました。「う～ん、い～いじゃん。い～いじゃん。どんどんやろうよ！」と決断力もありド～ンと構え、「会員相互の交流と親睦」という一番の活動方針に沿った「元気」が象徴される会となっていきました。

平成 17～19 年は、「倫理」と言えば「ヒヤゴン」と中部からスタートし、今では全国区となった第８代目の会長の比屋根均氏の下、新たな会の活動がスタートしました。中でも中部が誇る「ＴＭＯ」というＷＧの活躍が目立った時期でもありました。ちょっびり難しい顔を浮かべる会長でしたが、冷静に物事を考える慎重派でもありました。しかし、いつも沈着冷静な比屋根会長も平成 18 年 2 月に開催した当会の 20 周年記念例会のあの二次会では、とても考えられない姿・行動でした。びっくりするとともに尊敬してしまいました。本来は、ここで皆さんに写真にてご紹介すべきかと考えましたが、他にご参加いただきました各支部の皆さんの姿も紹介しなければならなくなってしまいますので省略させていただきます。でも、ほんとに皆さん、すごかったですよね。ちょっとだけ中身をご紹介すると「仮装カラオケ大会」でした。化粧をして白いドレスを着て「私、きれい！」とみんなを口説いていた北陸のＨさん、ピンクレディーのサウスポーの衣装で歌って踊った東京のＮさんと大阪のＯさんのコンビなどいろいろでした。楽しかったですね。

こんなにはじけてしまった中部も更なる新たな展開として学生さんや女性の会員増強を目指し、平成 20 年からは、当会では初の女性会長として平松明子氏が第９代目の会長に就任しました。女性らしい気配りにより、現在も当会を盛り立てていただいています。たまにブチ切れる時もあったりして、喜怒哀楽が現れるのも多少・・・・・・の会長です。また、この冊子が皆さんのお手元に配られるころには、なんと！、平松会長は、あらたな旅立ちをされていると思います。きっと、皆さんの前で重大な発表があると思いますので、期待していて下さい。

４．全国大会を振り返り

中部青年技術士会の活動とともにもう一つ忘れられない思い出として全国大会がありました。

平成 16 年の 9 月、第 31 回の全国大会の札幌からが始まりでした。各支部の皆さんとの「交流」「情報交換」などのきっかけとして、また、青年技術士が単独で担当する分科会のスタートでもありました。この大会以降、第 32 回の福岡、第 33 回の東京、第 34 回の福井そして、昨年の第 35 回の松江と各大会とも工夫され、とても充実した大会であったと思います。特に、それぞれの支部の青年の皆さんによる「おもてなし」には参加者の一人としてとても感謝するものでした。

全国の皆さんが毎年、東京以外のいろいろな地方で「交流」出来たことは、本当に楽しい思い出の一つでした。各支部の皆さん、大変お世話になりました。これからも機会があれば、是非、参加していきたいと思っております。

５．おわりに

最後に、中部青年技術士会の会員として活動した８年間は、いろいろな勉強の場となりました。今後は、ＯＢとして陰ながら応援していきたいと考えていますが、来年は、中部支部が主催する全国大会が三重県四日市市で開催されます。来年までは、中部青年技術士会の一員として、全国の皆さんとお会いできることを楽しみにして、今後、楽しく・・・・の場となるよう企画をしていきたいと考えていますので、是非ご参加下さい。お待ちしております。

（第 37 回技術士全国大会・三重大会　平成 22 年 9 月 24～27 日）　　以　上

シンクタンク活動報告

新定款案（中間報告）に関する青年層意見調査結果の報告

シンクタンク活動 G
報告：中嶋 幸宏

１．活動の背景

公益認定法人を目指す日本技術士会では，政策委員会で定款変更の検討を行ってきた。その定款第 2 条および 3 条について，改定案の中間報告が 2008 年 5 月に公開された。定款第 3 条は，技術士会の実施事項（事業）を定めるところである。公益認定要件として重要であることは当然であるが，会員にとって会員メリットの側面でも極めて重要と言える。

この定款改定案についての意見募集が，5 月 23 日から 7 月 31 日の期間，ホームページにて行われた。経験的に，技術士会の運営にかかわる意見募集においては，独立したベテラン層の声が中心になりがちである。これは，企業内技術士が大勢を占める青年層会員にとって，所属先企業の存在が大きく，相対的に技術士会運営への関心が薄いためと考えられる。

しかし，技術士会としては会員拡大および活性化を重点課題の一つとしており，技術士合格者の拡大と若年化を期待している現状において，青年層会員の拡大は重要である。それを実現するためにも，青年層にとって魅力ある事業とは何かを発信する必要がある。

そこで，青年委員会では，青年層会員へ政策委員会による意見募集へ積極的に参加することを呼びかけた。また，青年層に魅力ある事業を把握するため，出口アンケートのスタイルで意見傾向の把握に務めることにした。

２．実施方法

対象を会員，準会員に限り，下記資料を配付するとともに意見募集への参加を呼びかけた。依頼は例会出席者・知人・OB の範囲とし，同報メール等のインフラは使用していない。

- アンケートのお願い（公益法人改革の概要と意見することの意義）
- 新定款案と青年層ニーズ調査結果（H19.3 実施の青年層アンケートと新定款案の対照表）
- アンケート用紙（自身の意見を整理すると共に，発言を助けるもの）

３．アンケート参加者

総回答数は 73 件であった。回答者のプロフィールを左図に示す。

技術士	57
修習技術者	16

20歳代以下	4
30歳代	40
40歳代	25
50歳代以上	4

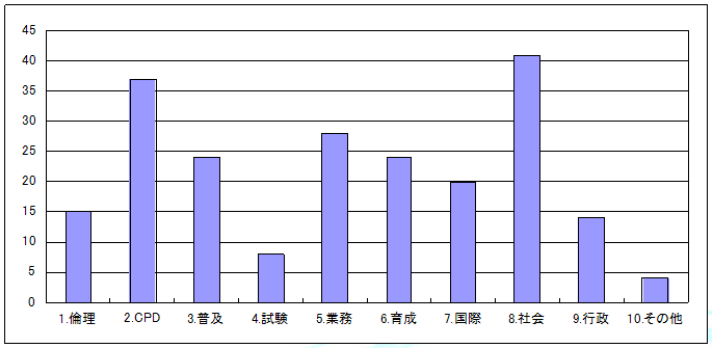
機械	6	電気電子	4	化学	9
建設	37	上下水道	7	衛生工学	1
農業	2	経営工学	1	情報工学	4
応用理学	5	環境	2	総合技術監理	16

北海道	5	東北	8	関東	27
北陸	4	中部	2	近畿	1
中･四国	24	その他	1	未回答	1

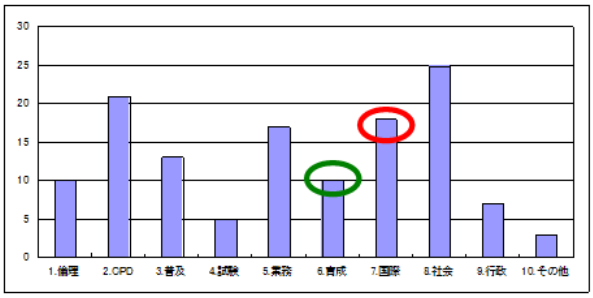
参加経験ない，少ない	16
参加している	14
行事運営経験あり	43

4．アンケート分析の例

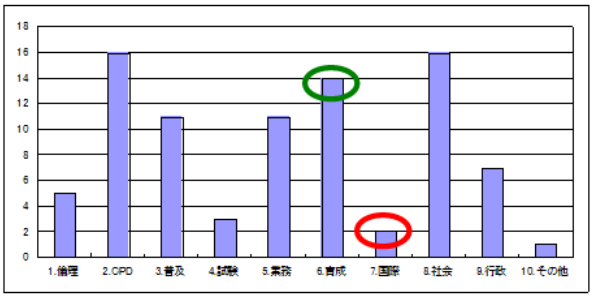
アンケートでは基本事業 1～10 のうち，関心の強い事業を 3 つ以内で選んでいただいた。全体（左図）では，CPD と社会貢献活動への関心の高さが際立った。これを年齢でわけると，40 歳未満では国際交流，40 歳以上で人材育成へ関心が移る傾向が見られた。



39歳以下（44人）

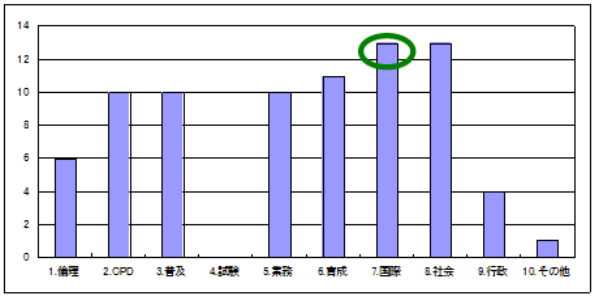


40歳以上（29人）

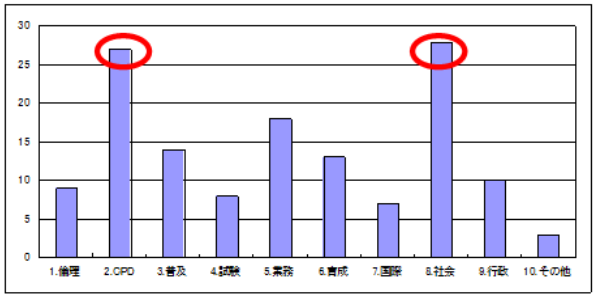


また，関東と関東以外の地域にわけると，関東では国際交流，関東以外では CPD と社会貢献活動に関心分野があることがわかる。これは研鑽機会の不足，そして地域発展への意識の高さが表れていると考えられる

関東（27人）



その他地域（46人）



5．まとめ

5 つの評価軸で分析した，関心領域の結果を下表に示す。

39歳以下	国際交流	40歳以上	人材育成
関東地方	国際交流	その他地方	継続研鑽，社会貢献
建設部門	社会貢献	その他部門	継続研鑽，業務開発
技術士	社会貢献	修習技術者	継続研鑽，業務開発，人材育成
運営経験	社会貢献	参加まで	継続研鑽，業務開発

青年層会員においても多様なニーズがある。今後，対象を意識したサービス提供を行うとともに情報発信をしていくことが大切だと考える。

以上

例会活動報告

例会参加者のアンケート調査

担当委員
鈴木　史人

青年委員会では、各種例会活動を実施している。毎年恒例のビールパーティや定例化したスポーツ交流は成果があるものの、研鑽を目的とした例会は、参加者が少ない。そこで、会員サービス向上を目的として、08 年 2 月より例会のアンケート調査を開始した。今後の例会運営を行うに当たり、アンケートの集計結果を報告する。

1．アンケート調査表

図 1 に示す。Q1～6 は各例会の講師及びスタッフに関する事項、Q7~14 は参加者の例会参加動機や要望、Q15~17 は参加者自身についての項目である。

2．調査を実施した例会

表 1 に示す。08 年 2 月~09 年 4 月に開催した例会にて実施した。4 月の特別例会は、講演終了後に個別ガイダンスを実施し、自由解散としたためアンケートの回収率が 20%程度であった。

3．調査結果

アンケートの集計結果を図 2～9 に示す。また、集計結果からみられた特徴を以下に示す。なお、Q1~6 については、各例会での反省事項であるため、本報告では割愛することにした。

- 例会参加の目的では、青年委員会の行事に参加してみたかった、人脈を広げたいという意見が有り、参加者は青年層での人脈作りを期待している。
- 希望する例会の順位は、国際交流、ビジネススキル、見学会の順であった。なお、過去の経緯では、ビジネススキルを目的とした例会は参加者が少ないため中止、平日開催の工場見学も参加者が少なかった。
- 国際例会、プレゼンテーション例会はリピート率が高く、若手技術士・修習技術者層の割合が高い。その他、新規にテーマを検討した例会は初めて参加した人が多い。
- 青年層が約 60%を占める。壮年層の参加も多い。
- 全体としては土曜午後開催希望が多いが、平日開催例会の集計では平日希望が圧倒的に多い。

4．今後の課題

工場見学は平日開催を行うのは難しい。土日開催を検討するには、ファミリー向けの例会を技術的テーマが濃くなるような工夫が必要と考える。また、例会参加のリピート率を高めるためには、共通技術分野のシリーズ化が考えられる。

希望する例会のアンケート項目の改訂も適宜実施し、会員ニーズに合う例会に向け、調査を継続していく。

以上

図１　アンケート調査表

＿月例会アンケート

（　　年　　月　　日）

本日は、青年員会の例会に参加していただいてありがとうございます。
今後、よりよい例会を企画していきたいと存じますので、アンケートにご協力ください。

●本例会の講師について

Q1 ・講師の話し方及び進め方はいかがでしたか。（○は1つ）

非常に良い　良い　少し良い　少し悪い　悪い　非常に悪い

Q2 ・講師のテキスト及びプレゼン内容はいかがでしたか。（○は1つ）

非常に良い　良い　少し良い　少し悪い　悪い　非常に悪い

Q3 ・講師へのコメントありましたら、お願いします。

●本例会の運営スタッフについて

Q4 ・例会前の運営スタッフの準備はいかがでしたか。（○は1つ）

非常に良い　良い　少し良い　少し悪い　悪い　非常に悪い

Q5 ・例会中の運営スタッフの対応はいかがでしたか。（○は1つ）

非常に良い　良い　少し良い　少し悪い　悪い　非常に悪い

Q6 ・運営スタッフへのコメントありましたら、お願いします。

●例会について

Q7 ・今回参加された例会をどのように知りましたか？（○は1つ）
- (a) 日本技術士会同報メールシステムで知った。
- (b) 技術士会/青年委員会のホームページで知った。
- (c) 月刊技術士（PE）で知った。
- (d) 青年委員会のブログで知った。
- (e) 以前参加した青年委員会の例会で知った。
- (f) 青年委員会以外の技術士会イベントで知った。
- (g) 青年委員会の会員から教えてもらった。
- (h) 青年委員会の会員以外の人から教えてもらった。
- (i) その他　具体的に:

Q8 ・今回の例会の参加理由は何ですか？（○はいくつでも）
- (a) 青年委員会の行事に参加したかったから。
- (b) 例会の内容に興味があったから。
- (c) 前に参加した例会がよかったから。
- (d) 青年委員会の会員から誘われたから。
- (e) 青年委員会の会員以外の人から誘われたから。
- (f) 前に参加した青年委員会の例会がよかったから。
- (g) 人脈を広げたかったから。
- (h) その他　具体的に:

裏面もご記入ください。

Q9 ・今までに青年委員会の例会にどのくらい参加しましたか。（○はひとつだけ）
- (a) 初めて
- (b) 2回目
- (c) 3回目
- (d) 4回以上

Q10 ・過去に例会に参加した方にお聞きします。
今までに参加された例会のテーマはどのようなものでしたか？
例）国際交流、見学会、ビアパーティ、など

Q11 ・今後どのような例会に参加したいですか。（○はいくつでも）
- (a) 国際交流（例：国際交流講演会、国際儀礼セミナー、・・・・・）
- (b) 技術者倫理（例：事例に学ぶ技術者倫理）
- (c) ビジネススキル（業務遂行のヒント、タイムマネジメント、・・・）
- (d) マネジメント講座（例：ワークバランス講座、管理研修情報交換会、・・・・）
- (e) 見学会（＊技術士向け工場見学会）
- (f) 家族を含めて参加できる講演会や体験学習
- (g) ご自身の専門分野の基礎講座
- (h) ご自身の専門以外の分野の基礎講座
- (i) フットサル大会（例：フットサル交流、日韓会議サッカー直前大会、・・・・）
- (j) 交流サロン（＊人材交流とした交流会で、テーマを決めてディスカッション）
- (k) その他　具体的に:

Q12 ・例会の開催についてどの時間帯が適当と思いますか。

平日夜　土曜午前　土曜午後　土曜夜

Q13 ・例会の方式について、何を重視しますか。重視する際に1位から5位まで順位を付けてください。
- (a) 講師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　（　　）位
- (b) 例会内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　（　　）位
- (c) 開催時間帯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　（　　）位
- (d) グループ演習・ディスカッション・・・・・　（　　）位
- (e) 懇親会の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　（　　）位

Q14 青年委員会に対して要望がありましたら、記入してください。

●ご自身（ご回答者）についてお伺いします。

Q15 技術部門:　　お名前（任意）:

Q16 年齢層

29歳以下　30代前半　30代後半　40代前半　40代後半　50歳以上

Q17 会員層

学生　JABEE認定　修習技術者　技術士補　技術士　その他

以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。

200800100

表１　アンケート調査を実施した例会

		開催日	時間	内容	講師有無
08年	2月例会	2月15日(金)	18:30～20:00	博物館・科学館の出前講座に学ぶ	有り
	3月例会	3月22日(土)	13:00～16:00	事例に学ぶ技術者倫理	有り
	4月例会	4月26日(土)	10:00～12:00	セレンディピティ・カードの活用と演習	有り
	5月例会_1	5月17日(土)	13:30～16:15	大学院と社会人教育	有り
	5月例会_2	5月31日(土)	14:00～16:00	技術者のための国際マナー	有り
	9月例会	9月20日(土)	13:30～17:00	プレゼンテーションコンテスト／ポスターコンテスト	無し
	10月例会	10月4日(土)	10:00～12:00	『樹木医による公園散策ツアー』@新宿御苑	有り
	12月例会	12月20日(土)	13:00～19:00	国際交流成果発表会／活動中間報告会	無し (懇親会有り)
09年	4月特別例会	4月29日(祭)	13:30～16:30	合格者歓迎会＆青年技術士会展2009	有り

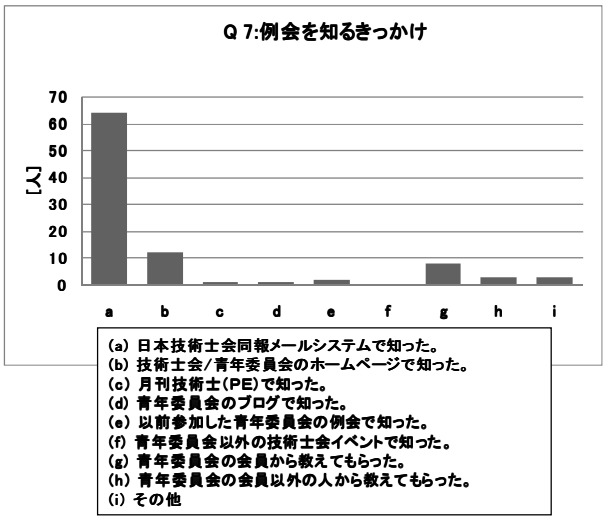


図２　例会を知るきっかけ

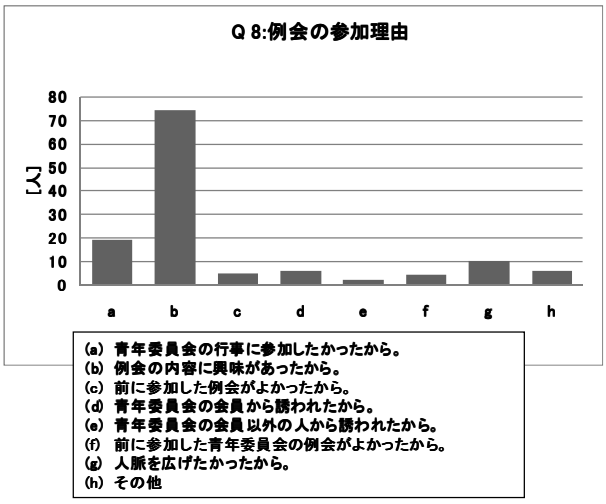
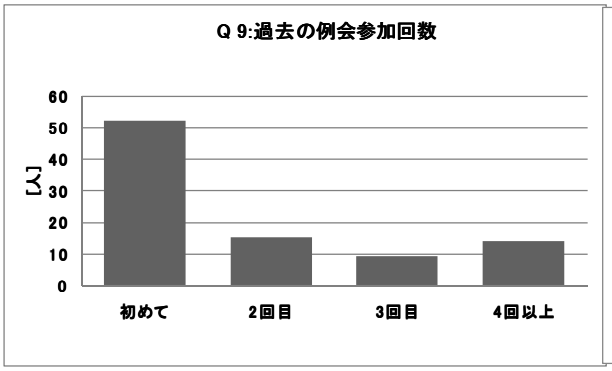


図３　例会の参加理由



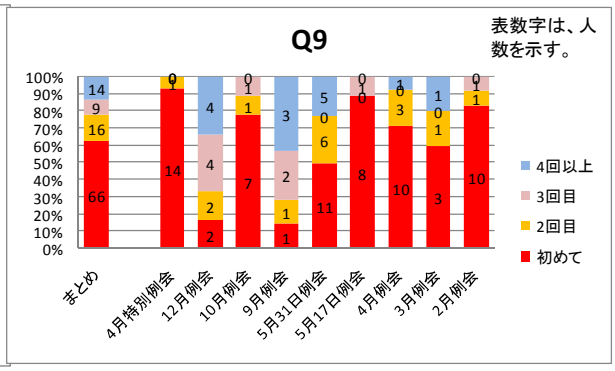
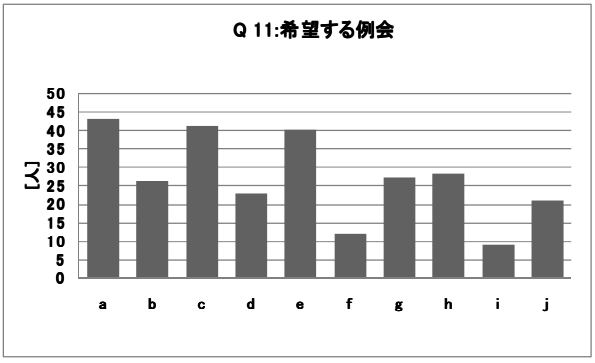


図４　例会の参加回数



(a) 国際交流(例:国際交流講演会、国際儀礼セミナー、・・・・・)
(b) 技術者倫理(例:事例に学ぶ技術者倫理)
(c) ビジネススキル(業務遂行のヒント、タイムマネジメント、・・・)
(d) マネジメント講座(例:ワークバランス講座、管理研修情報交換会、・・・・)
(e) 見学会(＊技術士向け工場見学会)
(f) 家族を含めて参加できる講演会や体験学習
(g) ご自身の専門分野の基礎講座
(h) ご自身の専門以外の分野の基礎講座
(i) フットサル大会(例:フットサル交流、日韓会議サッカー直前大会、・・・・)
(j) 交流サロン(＊人材交流とした交流会で、テーマを決めてディスカッション)
(k) その他

図５　希望する例会

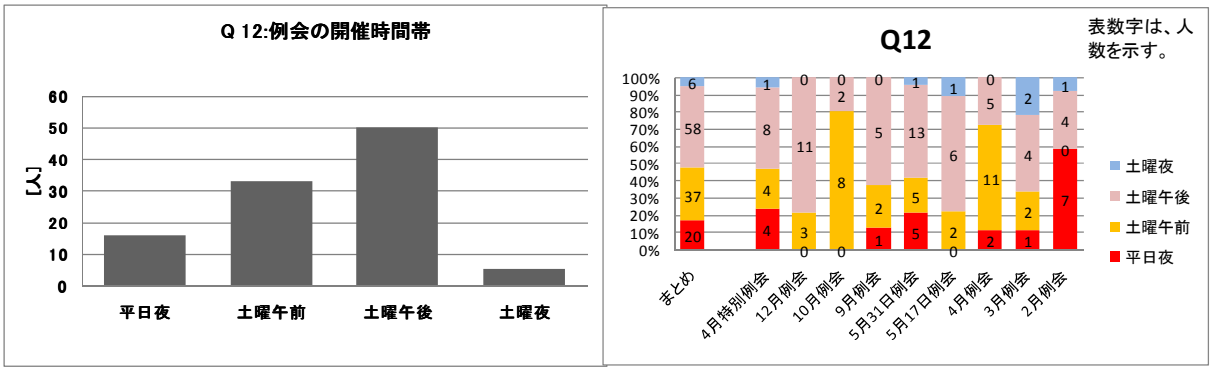
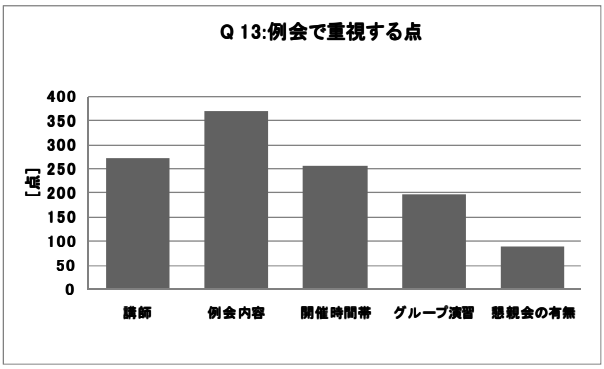


図６　例会の開催時間帯



5 項目について順位付けをし、下記計算式で点数付けを行った。

点数＝(1 位の数)×5+(2 位の数)×4+(3 位の数)×3+(4 位の数)×2+(5 位の数)×1

図７　例会で重視する点

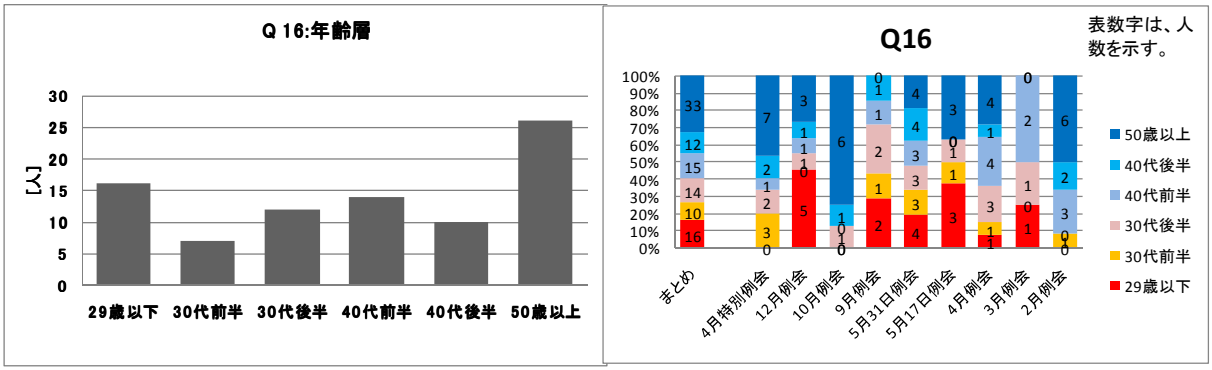


図８　年齢層

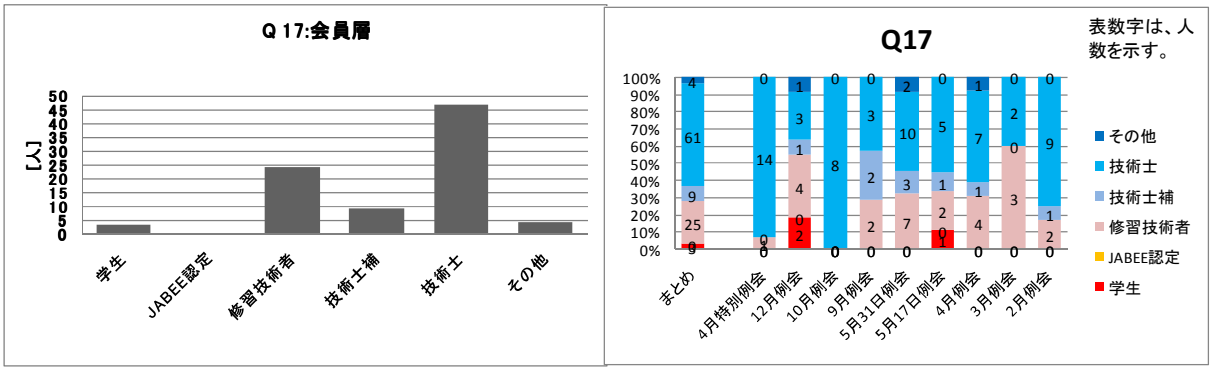


図９　会員層

例会報告（フットサル交流会）

副委員長
松本正人

■フットサル交流活動について

4年前より、日韓技術士会議に合わせて「日韓親善サッカー大会」が実施されるようになりました。2007年度までの戦績は、日本の0勝1分け2敗。2008年度は、9月28 日に新潟市で開催される「日韓親善サッカー大会」で日本の初勝利を目指すことを目的に、2007年12月に「フットサル愛好会」を立ち上げた。

その後、Google groupを活用したメンバーのメーリングリストおよびブログを開設し、普段は遠く離れた場所に勤務しているメンバー同士のコミュニケーション手段を確保した。平成21年4月までの間に、フットサルおよびサッカーの合同練習を5回実施した。練習会およびブログを通じてメンバー同士の結束が固まり、また、地元北陸支部の皆さんの献身的な準備・声かけが奏功し、新潟市で開催された日韓親善サッカー大会には約50名の選手が結集して韓国技術士会のチームを迎え撃つことができた。

新潟での一人当たりのプレー時間は15分程度と短かったが、皆さんとても楽しそうにプレーされていたのが印象的だった。今まで準備してきたことが実を結んだと感じた。ある意味、試合で勝つことよりも、サッカーを通じて交流の輪が広がり来年につながったことの方が重要であったように思う。

このようなスポーツを通じた交流が、青年層の皆さんの積極的な技術士会活動への参画のきっかけになれば幸いに思う。今後も、東京、新潟でサッカー（フットサル）交流を継続していきたいと思っている。

■ フットサル愛好会のあゆみ

2007 年 12 月	IPEJ フットサル愛好会 キックオフ
2008 年 1 月	メンバーのメーリングリスト（Google group 活用）およびブログ作成
2008 年 1 月 － 9 月	自主練習（皇居 1 周ランニング）を原則毎週開催 （愛好会メンバー全員で、9 月 28 日の日韓戦までに皇居を延べ 108 周）
2008 年 3 月 16 日	青年委員会から 2 名が第11回 東京・荒川市民マラソン参加（5km）
2008 年 4 月 5 日	第 1 回フットサル練習会（参加者＝16 名）
2008 年 7 月 19 日	第 2 回フットサル練習会（参加者＝18 名）
2008 年 8 月 9 日	第 3 回フットサル練習会 in 高崎（参加者＝13 名）
2008 年 9 月 6 日	サッカー・テストマッチ（参加者＝約 30 名）
2008 年 9 月 28 日	日韓親善サッカー大会（場所＝新潟市陸上競技場、参加者＝約 50 名）
2008 年 4 月 26 日	サッカー練習会（参加者＝40 名）

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	ビアパーティ
行事概要	日　時：２００８年８月３日（日） 場　所：新宿ライオン　新宿エルタワー店 参加者：１７名
活動内容	毎年恒例の技術士第二次試験終了後に開催されているビアパーティー （撮影　鈴木史人）
成果と所感	本例会は、青年技術士層の交流を目的にし、毎年技術士第二次試験終了後の夕方から開催している。今年の参加者も技術士第二次試験受験者や土曜日の総合監理部門受験者が半分を占め、試験の出来栄えについて話が盛り上がった。 参加者の中には JABEE 出身の社会人１年生もおり、技術士会や青年委員会の活動を説明する事ができた。母校に今日の事を報告します、と帰り際に笑顔で言ってくれたのが印象的であった。 また、今回の例会には、元青年技術士懇談会委員でもあった嶋田情報工学部会長も参加していただき、当時の話を伺ったり、企画中の 50 周年プロジェクトについても協力をお願いすることができた。
今後の展開	青年委員会のビアパーティは 30 年以上の歴史がある恒例行事である。今後も継続したい。

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	プレゼンテーション・コンテスト
担当メンバー	中嶋幸宏（リーダ）、西角井造（司会）、田村、松本、斎藤、仁田
行事概要	日　時：2008 年 9 月 20 日(土) 場　所：日本技術士会　葺出第二ビル　C/D 会議室 参加者：一般　10 名　，　スタッフ　12 名
活動内容	1.目的：短時間の口頭発表およびポスター発表の機会を多くの修習技術者および若手技術者に提供することで，プレゼンテーション技術の相互啓発を促す。 2.資料：プログラム、評価シート、アンケート 3.内容 1）開会挨拶（13:30～13:35）田村委員長 2）香港交流報告（13:35～13:50）長内委員補佐 3）オーラル・セッション（13:50～16:00：途中休憩 10 分を含む） 語り手と聞き手の役割設定とプレゼンテーションの工夫説明をも含め、一人持ち時間 10 分で発表を行った。実質のプレゼン時間は 5 分である。また 3 人が連続して発表し、まとめて質疑することとした。これを 3 セット、計 9 件の発表を実施した。 ①マイクロロボティクスを適用した胚操作の自動化／後藤充弘 ②熱溜りを利用した空調システム／臼井義顕 ③ダイオキシン分解法による廃棄物焼却炉解体工法／網野真樹 ④古の都　伊勢　にようこそ／奥田雅大 ⑤地球温暖化とリニモの謎／坪内恭史（中部支部） ⑥土木遺産道路（ビデオ）／永見正行（中部支部） ⑦エンジニアの国際コミュニケーション能力／松本正人 ⑧修習技術者から技術士を目指して（改）／石関　学 ⑨会計的視点からの技術者の価値／山地真吾 最初の 3 件は純技術系、次の 3 件は一般向けの解説、最後は技術者像について。 4.ポスターセッション（16:00～16:30）D 会議室側に掲示した。応募ポスターは 13 件。 ①交通ゲームの開発と実践概要について／中部支部 ②九州の産業・技術士遺産を巡る旅，等／九州支部 ③清瀬市指定無形民俗文化財「清戸獅子」／柳澤　剛 ④50 周年イベント／50 周年グループ ⑤支部共通パンフレット／支部Ｐグループ ⑥香港報告／鈴木史人 ⑦UNESCO ENGLISH CAMP／中藤智子 ⑧欧州ＲｏＨＳ指令対応電線の開発／根本英俊 ⑨管理員マナーアップキャンペーン／西角井造 ⑩ラオスで再発見！！ そうだ「粗朶」にしよう！／渡邊弘毅 ⑪ガスクロマトグラフィーについて／渡邊春菜 ⑫制御工学学習のための実験装置の構築／木下　遥 ⑬8 月 28 日（火）、皆既月食を見よう！／中嶋幸宏 リフレッシュメントを用意したポスターセッションでは多くの歓談が交わされた。 5．全体討議・質疑応答（16:30～16:50） オーラルセッション・ポスターセッションを通して、プレゼンテーションに関する意見・感想を全員で述べて効果を確認した。 6．表彰（16:50～16:55）田村委員長より、各賞に賞状および副賞を手渡した。 ・最優秀賞：坪内氏、優秀賞：奥田氏、支部Ｐグループ、委員長特別賞：網野氏 7．閉会挨拶（16:55～17:00）中嶋（幸）副委員長より閉会の挨拶を行った
成果と所感	発表テーマを定めず、自発性の発揮を期待する意欲的なトライアルであった。事前の広報により支部からの参加もあり本支部交流が果たせた。事前のエントリー収集、ポスターの出力、アナログ的な評価の集計等、スタッフの労力はかなりのものになった。
今後の展開	参加者に分かりやすくするにはテーマ設定が適当。事前準備の充実と当日のスタッフの確保が求められる。また、評価とフィードバックについても工夫の余地がある。

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	10 月例会 『樹木医による公園散策ツアー』
担当メンバー （〇印:リーダ）	中嶋秀朗〇, 田村裕美
行事概要	日　時:2008 年 10 月 4 日(土)　10:00～13:00 場　所:新宿御苑 参加者:一般　27 名　,　スタッフ　3 名
活動内容	【内容】 身近な公園の樹木を、樹木医による解説を聞きながら観察する見学会. 公園を散策しながら, 様々な樹木についてのお話や, 現在の樹木に関する問題などのトレンドについて講師の樹木医から講義をいただき, 教養を深める. また, 会員相互の親睦も図る. 【講　師】 小松秀次樹木医、鈴木健一樹木医 【タイムスケジュール】 10:00～12:30　樹木について知る公園ツアー 12:30～13:00　草を使っての昆虫製作 13:00～　　昼食 【見学内容】 講師の先生方と参加者で新宿御苑を散策しながら, そのつど新宿御苑内にある樹木についての説明をいただいた. 新宿御苑の歴史や, 新宿御苑にある樹木の歴史などを交えながら, それぞれの樹木の名前や特徴に始まり, そして, 現在の生育状況や樹木の病気などについてまで, 多くの種類の樹木に対して, 解説していただいた. 散策説明終了後は, 広場にて身近な草木を用いての昆虫模型つくりを鈴木樹木医に教えてもらいながら参加者は体験した. その後は, 昼食をとりつつ親睦を図った.
成果と所感	樹木に対して興味がある参加者が多く, 散策しながら非常に積極的に樹木についての質問を講師の先生に投げかけていた. 新宿御苑には非常に興味深い樹木が多く, また, 樹木医の熱心な説明に参加者が聞き入っていたため, 散策時間が予定よりも 30 分ほどかかった. 付け加えると, 途中で取る予定だった休憩も忘れるほど楽しく, また意義深い例会であった.
今後の展開	家族も含んだ教養講座は, その趣旨からも広い年齢層に受けがよく, 継続的に続けていくのがよいというのが, 担当メンバーの意見である.

2008 年 10 月例会

『全国大会報告交流会』

日時：2008 年 10 月 30 日（木）　19：30～21：00
場所：葺手第二ビル　5F　A 会議室

2008 年 10 月 17 日より島根県松江市で開催された技術士会全国大会の魅力を青年技術士の立場から紹介・報告を実施した。軽食や飲み物を用意し、座談形式としている。

【レポート内容】

①過去 34 回の技術士会全国大会の紹介

②松江市の概要、地勢、歴史、観光
その他、本大会パーティでの安来節、神楽「大蛇（おろち）」。

③本大会紹介
・パンフレットや配布の冊子を提示しながら、全体の様子
・青年分科会である第４分科会にて実施したパネルディスカッション

④青年技術士の集いを紹介
・10/17（金）20：30～　ライブハウス「ｅｕｒｕｓ」にて青年技術士二次回開催
本・支部挨拶および紹介「１支部当り５分」、余興（クイズ、バンド演奏）
・10/18（土）9：30～　青年委員会　本支部交流会開催

⑤青年技術士テクノツーリズム（農業視察ツアー）を紹介
枕木山より中海干拓の本庄工区全体を見て、説明を受けた後、中浦水門跡地に寄り、境港市の水木しげるロードを散策、昼食
午後は雲南市の山王寺棚田や大原新田を見学し、おろちループを通り、尾原ダムを見学

⑥2009 年全国大会紹介
日時：2009 年　10 月 15 日（木）～18 日（日）
場所：宮城県仙台市　仙台市国際センター
大会テーマ：「文明の転換期における技術士の役割」
～技術士は安全・安心を守れるか～

以上

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	12 月例会「国際交流成果発表会／平成 20 年度活動中間報告会」
担当メンバー （〇印:リーダ）	根本英俊〇，鈴木史人
行事概要	日　時：2008 年 12 月 20 日（土）　13:00～16:40　（17:00～忘年懇親会） 場　所：葺出第二ビル　A/B 会議室 参加者：一般　14 名　，　スタッフ　13 名
活動内容	１．平成 20 年度　青年技術士交流実行委員会活動中間報告 田村委員長より、前期活動の一覧と各 WG の活動内容報告。 ２．国際交流成果発表会 2-1.　国際交流概要紹介　／松本正人氏 これまでの国際交流の概要と最近の国際交流の状況の報告。若手技術者に必要なスキルと国際交流の重要性の紹介。 2-2.　豪州交流報告／松本正人氏 豪州技術士会との締結の内容の紹介から、6 月の豪州技術士会　青年委員長アニー氏を迎えての交流内容紹介。次年度以降も日豪交流の積極的継続の宣言。 2-3.　香港交流報告／鈴木史人氏 8 月の香港工程師学会、香港 ICE 訪問の報告。台風の直撃のため初日の予定が全てキャンセルとなり、残 1 日でプレゼン、討論会、観光等、殆ど全ての予定を消化した。 2-4.　YEAFEO 報告／奥田雅大氏・中藤智子氏 バンコク空港のデモによる封鎖のため、搭乗機は香港へ急遽路線変更、翌日帰り便を確保して帰国した。今回の学んだこととして、英語力の必要性、判断力の重要性、緊急時の情報収集、海外渡航時の充分な準備の重要性等の紹介があった。 2-5.　日韓技術士会議報告／北陸支部　齋藤真晴氏 北陸支部より、日韓大会の報告、第 38 回大会概要、大会の成果・課題と展望の紹介。課題としては運営費の増大、地方の負担大（通訳人材含）、人脈の継承が挙げられた。ネット通信による報告は音声系が不調であり、報告内容の聞き取りは可能であったが、質疑応答等は困難な状況であった。 ３．グループ討議 「技術士会における国際交流とリスク管理」を課題とし、技術士会で国際交流をする意義、リスク管理につきグループ討議を実施。討議後に討議内容の報告を実施。
成果と所感	国際交流の報告としては、トラブル対処に対する臨場感あふれる報告や、背景や文化等を報告があり、優れた内容であった。グループ討議の内容に付いては、経験豊富な OB 等の多数参加により活発な討議となった。 通信系の実験的な試みは、実施は出来たが、幾つかの問題点が明らかになった。特質を理解できるようマニュアル等を整備した上で、例会の内容に応じて、使い分けてゆくことが必要と考える。
今後の展開	本年度の国際交流ではトラブル対応を考えさせられる事例が幾つかあったため、グループ討議により自由意見を出してもらった。この結果は、今後の国際交流での留意事項として活用が期待される。 通信系での実験的な試みで摘出された問題点は、今後の例会で活用する際の参考になると考える。

2009 年 1 月例会

『減災カルタをつくろう』

日時：2009 年 1 月 17 日（土）　10：30～12：30
場所：葺手第二ビル　5F　A 会議室
講師：橋爪慶介氏　　技術士（建設部門）

当例会は『減災かるた』プロジェクトとして、講演及びワークショップを実施した。

１．防災に関する現状と課題
【大震災に関する事実】
１）日本は大地震が発生する確率が高い地理的特徴をもっている。
２）歴史的にみて首都圏で大地震の発生する確率が高い。
３）大地震で揺れている真っ最中よりも、地震発生後に死傷者が多く発生している。
４）防災に関心が高い人達は、行政の担当部署や大学等教育機関の研究者や学識者、関連企業の専門家がほとんどである。
５）大震災後、市街地復興に貢献･活躍するのは一般庶民であり、必要とされるのは人間力である。

【今後の課題】
１）「防災」というよりも「減災」という考え方が必要。
２）近隣を主体とした日常の地域コミュニティ活性化が必要。
３）生活弱者（高齢者、幼少年、女性等）に「減災」に関する意識啓蒙の必要性。

２．提案：「減災かるた」プロジェクト
【「減災かるた」提案の理由】
・日本伝統の教育・遊び文化の活用
・「かるた」は、老若男女が楽しく遊べ参加できる教育ツール
・身近な生活空間で、老若男女が参加でき、コミュニケーションがとれる手法
・日常時から非日常時に備える考え方に則した手法
・「減災」に関する意識啓蒙は、高度の専門知識の学習することよりも、まず「減災キーワード」を知ることが重要
・一般庶民（老若男女）による“知識”の共有化とコミュニティ活動　→　いざと言う時の“知恵”の創造へ

※意見交換等
・キーワードの選出については、知識普及のためをまず目的とすることが良いと考えている。
→一般の人に、防災に対する知識を少しでも知ってもらうことが、まずは『減災』と考える

為。

→様々な防災、減災のキーワードがあるが、

・キーワードについては、震災時の現場や専門家との関わりを意識してまとめたほうがよい

・キーワードの選出の際は、震災後の時系列で仕分けしたり、そのキーワードの対象者等（行政、専門家、一般人、生活弱者等…、場所）により内容が異なるものとなる。

キーワードの絞り込みは、バランス感覚が必要。

・キーワードの選出にあたっては、震災後の時系列や対象者をフレームワークによって仕分けし、その考えを整理表としたものを、『減災かるた』の付録として添えることを検討している。

・様々なカードゲームが普及しているので、単純な“かるた取り”の遊戯にならない様に工夫できたらしてみたいと考えている。

・プロトタイプ的なものを数枚作成したほうがよいと考える。プレゼンにうまく利用できると予測。

・“命を守る”ことに役立つをキーワードを優先してほしい。

→震災直後を対象としたキーワードとしたほうがいいのでは？

・2月に開催予定の「震災対策技術展」に数枚でいいからプロトタイプを展示してはどうか？

→コンセプトをまとめるのと準備・調整に時間がかかるため困難。

→展示の規模とプロトタイプのとのバランスが悪く、PR度は低いと思われる。

→また類似コンセプトをすぐに他組織で立案される可能性でＮＧと判断。

・すでに『防災かるた』はいくつかある。それらも参考とすべき。

→技術士会監修あるいは、技術士会発信らしいキーワードを選出し、かるたを作成したい。

・プロジェクトのすすめ方について

→技術士会とどのように関わりあってすすめていくか検討が必要。

→プロジェクトにかかる初期費用に対してどのように工面・運営していくか協議・考察が必要。

→スケージュリングのとおり３月までに、プロジェクトに賛同及びし協力者を集め、そのなかでかかるコストやプロジェクト成功時の報酬等を想定してすすめていきたいと考えている。

→“技術士”としての活動となると、かかわる人数が多いほど理想論をもって評論的になり、より完璧なアウトプットを求める傾向になりがちであるが、そうなると遊戯としてカタブツなものができてしまう可能性が高いと考える。したがって比較的若い人の柔軟な発想を期待し、参画をお願いしたいと考えている。

→また「船頭多くして…」とならない様に、少人数でスピード感をもってまずアウトプットすることを考えている。

→早めにアウトプットすることで、「減災かるた」が技術士会の広報に使用できたり、青年技術士会や科学コミュニケーターの活動の一環としてツールとして広く活用できればいいと考えている。そうすることで、次の活動でより良いものが創出できるのでは、と考える。

以上

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	平成 20 年度一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンス （ポスター展示・パネルディスカッション）
担当メンバー	田村裕美、松本正人、斉藤稔、鈴木史人、渡邊弘毅
行事概要	日　時：平成 21 年 1 月 31 日 場　所：ベルサール神田
活動内容	1．ポスター展示：26 の部会、諸団体（委員会、プロジェクトチーム） ・ 当日配布資料には、50 周年記念イベントの案内と支部共通青年委員会パンフレットを同封した。 ・ ポスター展示では、50 周年イベントのポスターと月刊PE500 号に掲載された「技術士さんって？」を掲示。過去4 年分の活動年鑑とフライヤー（裏面申込書貼付）も展示した。 2．パネルディスカッション ・ 青年委員会よりパネルディスカッションのコーディネータ役を派遣した。 ・ 「技術士への挑戦とキャリア形成」をメインテーマに掲げ、4名パネリスト(技術士：大野智裕氏・原洋介氏，修習技術者：藤井佳直氏・末廣多恵子氏)から下記のサブテーマについて10分ずつ発表をして頂き、コーディネータから質問を行う形でテーマ討論を行った。その後、会場からの質問を受け付け、討論を行った。 【テーマ①】：二次試験受験までのモチベーションの維持、【テーマ②】：日本技術士会との関わりと、研鑽の仕方、【テーマ③】：技術士であることの自覚と、活かし方、【テーマ④】：どのような技術士になりたいか
成果と所感	1．ポスター展示 ・ 2/12 の修習委員会において、ポスター展示には青年委員会に特別な配慮が必要ではないかという報告があった。 ・ ポスター展示のみならず、活動内容の画像もあると、さらに魅力的な展示となる。 ・ 青年委員会の活動紹介に加え、入会するメリット（人脈形成等）的な説明要素があるとなお参加者の興味を引くと考えられる。 2．パネルディスカッション ・ MICE-i による近畿支部、中四国支部への中継を実施したが、パネルディスカッションにおいて音声不具合が発生し、予定していた拠点からの質疑応答ができなかった。
今後の展開	1．ポスター展示 ・ 青年という言葉に惹かれるのか、青年委員会の展示には多くの参加者が集っており、一時は人の多さに展示が見にくいような状況であった。若手の1 次試験合格者が青年委員会に興味を抱くのは自然なことであり、次年度以降も同様の傾向が見られると想定されるため、説明のしやすさ等を勘案し、2 団体分のスペースを割り当てることが適切なように思われた。 2．パネルディスカッション ・ 今後とも、第二次試験の受験対策や合格テクニックに重きを置くのではなく、第二次試験までのモチベーションの維持のために、日本技術士会が提供しているプログラムや、講習会・講演会等に積極的に参加し、人脈形成、視野の拡大、OJT では習得しにくい修習分野のフォロー、業務遂行能力の向上を図ることの大切さを聴講者の皆さんに伝えられるような議論展開となるように心がけることが重要と考える。

「青年技術士交流実行委員会 4 月特別例会 /合格者歓迎会＆青年技術士展 2009」実施報告

青年技術士交流実行委員会　宮本 忠博

1,2 次試験合格者歓迎会ならびに青年技術士展を、2009 年 4 月 29 日（土）京橋プラザ区民館多目的ホールにて実施しました。

本例会では、２名の技術士（企業内技術士と起業技術士）に講演いただき、また、技術士会各部会の若手グループ、国際交流、ＡＰＥＣ、修習委員会、青年技術士展など各種ブースを設置し、各部会や青年委員会の各種活動・研鑽・人脈作りなど出席者が直接、対話・相談・質問できる工夫をしました。終了後は、有志にて懇親会を実施しました。実施内容を以下に報告します。

１．概要

日時：2009 年 4 月 29 日(土)　　場所：京橋プラザ区民館 多目的ホール

主催：青年技術士交流実行委員会　　参加者：一般 60 名，委員会参加 11 名　ブース応援 19 名　計 90 名

司会：末廣多恵子

２．内容

２．１．交流コーナーオープン（13:00～13:30）

建設部会、全国大会、修習委員会、原子力・放射線部会、機械部会、水産部会、
環境部会、情報工学部会、日韓・ＡＰＥＣ・ＥＭＦ・CPD、電気電子部会、化学部会、
経営工学部会、青年技術士展をオープンさせて出席者との交流を図りました。

２．２．開会挨拶（13:30～13:32）

田村委員長より、開会挨拶として趣旨の説明、スケジュールの説明を行いました。

２．３．青年技術士交流実行委員会活動紹介（13:32～13:40）

中島（幸）副委員長より、青年技術士交流実行委員会の活動内容（委員会、例会、全国大会、国際交流など）について紹介を行いました。

２．４．起業技術士と企業内技術士による講演（13:40～14:55）

1)　桂利治氏（起業技術士）

「技術士でメシを食う」のタイトルで、ユーモアを交えた講演が行われました。以下に講演中のトピックスと桂利治氏のホームページ（下記アドレスご参照のこと）に掲載のコメントなどを紹介します。

- 技術士を取って独立ではなく自分の Identity を貫くなら独立しかないと考えた。
- 会社にいると内部評価で二律背反の場面があるが視点を変えることが大事である。
- 技術士だからメシが食える訳ではない。（今は技術士を名乗っていない）
- 技術士の資格をコアとして色々と幅を広げ、お客のニーズが変わっていく時に自分も合わせて変わっていくことが重要である。
- 技術士は CE から PE に名称変更されたが、私が考えるプロフェッショナルを端的にいえば、お

客が期待する成果を出すことである。

- 顧客の獲得は、主に、退職した会社社長の飲み友達や飲み仲間である。
- 独立苦労話的なものはネタがたくさんあるので、話し出したらきりがないので・・しかし当然のごとく、その後の飲み会では一部披露することになる。（ホームページ掲載コメント）
- 講演後に設けられた”交流ブース”での情報交換は非常におもしろかった。（ホームページ掲載コメント）
- 初めての試みとのことであるが、講演者、聴講者ともに後から個人的に話ができるのは良いですね。（ホームページ掲載コメント）

ホームページアドレス→http://sekoukeikaku.typepad.jp/memo/

【プロフィール】

・桂技術士事務所代表。（業務改革コンサルタント）
・市場の信頼性を確保・維持しながら、より素早く顧客の求める価値を提供できるような業務プロセスへの改革を支援している。
・プロジェクト型生産環境をメインに受注生産環境、在庫生産環境、サプライチェーン全体までのソリューションを提供している。

【資格等】

技術士（総合技術監理部門、建設部門）
労働安全コンサルタント
１級土木・建築施工管理技士
日本 CM 協会認定コンストラクション・マネージャー

【その他地域貢献活動】

宮城県沖地震対策研究協議会　学術会員
地元小学校　PTA 顧問
地域コミュニティ FM（FM たいはく 78.9MHｚ）DJ

2) 野村貢氏（企業内技術士）

「技術士取得にあたり考えなければならないこと-活用と実現-」のタイトルで講演が行われました。体調不良もあってか、講演中２回ほど中座となったものの、内容の濃いお話を頂きました。以下に講演中のトピックスと野村貢氏のホームページ（下記アドレスご参照のこと）に掲載のコメントなどを紹介します。

・ 技術士は、技術者にとって最終資格からスタートの資格に変わった。
・ 一度退職して２年間技術士事務所を経営した時期を経て今の会社に再就職した。
・ 当社は、全従業員のうち、技術士の資格を取得している人の比率の方が多い。
・ 本日、京橋プラザまで足を運んでくださった皆さま、青年委員会の皆さま、ごめんなさい。おわびに明日から本日講演させていただいた３点について、ブログ上で詳述していきたいと思います（ホームページ掲載コメント）→３テーマについてそれぞれ３回ずつのシリーズで紹介されております。以下にタイトルのみ紹介します。
・ 技術士取得はスタート CE から PE へ（１テーマ目）
・ 技術士でなければ管理職になれない会社（１テーマ目）
・ 技術士の活用、活用のされ方（１テーマ目）
・ 技術士のネットワーク（２テーマ目）
・ 技術士は引きこもっていてはダメ（２テーマ目）
・ 技術士はブルーオーシャンを目指そう（２テーマ目）
・ 技術士は審美的になろう（３テーマ目）
・ 技術士のプライド（３テーマ目）
・ 道は長い（The Long And Winding Road for PE）（３テーマ目）

ホームページアドレス→http://blog.goo.ne.jp/nom1net/

【プロフィール】
・建設コンサルタントに勤務する企業内技術士。
・岩盤、トンネルの知識、経験を活かしたコンサルティングを中心に道路マネジメント
防災マネジメントの技術支援を行っている。
・青年技術士交流実行委員会元委員長。

【資格等】
技術士（総合技術監理部門、建設部門）
土木学会認定上級技術者、１級土木施工管理技士、VE リーダー

【その他】
炭鉱遺産、立坑マニア

２．５．交流コーナーオープン（14:55～16:30）

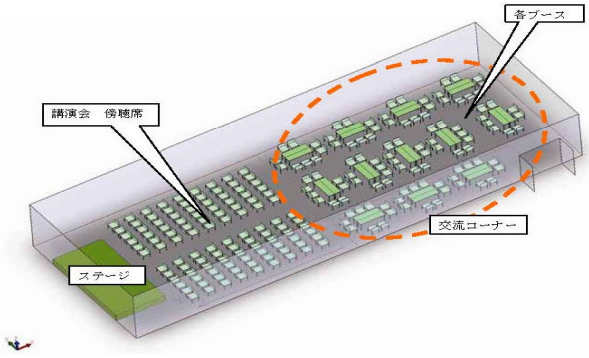
国際交流・体験談、建設部会、全国大会、修習委員会、原子力・放射線部会、機械部会、水産部会、環境部会、情報工学部会、日韓・ＡＰＥＣ・ＥＭＦ・CPD、化学部会、

電気電子部会、経営工学部会、青年技術士展をオープンさせて出席者との交流を図った。
追加ブースとして、海外留学、スポーツ交流、理科支援を設置した。
主なブースの実施状況について、以下にトピックスと写真を紹介します。

２．５．１．トピックス

・ここでの青年の定義は、45 歳以下であり、30 歳前後の方も多くて活気がある。（原子力・放射線部会）
・会場レイアウトはゆっくり懇談できるよう考えられており、また一つの部会だけでなく３部会は廻ってもらうよう適時席移動のアナウンスもあるというよく練られた運営であった。（原子力・放射線部会）
・原子力・放射線部門の一次二次試験合格者は残念ながらみえなかったが、電気電子、上下水道、応用理学、情報工学、化学の方への説明であっという間の 90 分であった。（原子力・放射線部会）
・29 日の行事では、意外にも？ゆっくりと若い人たちなどと話をする時間が取れて、有意義に過ごすことができました。貴重な休みの時間をこういう行事のために積極的に費やす人たちのやる気や熱意などが十分に伝わってきました。（化学部会）
・スタッフや講演者とお話することができなくて残念でした。
・位置付けが今ひとつわからなかった。化学部会でも若手や企業内技術士を対象とした会をいろいろとやってみたいという話はあるのですが、いざ企画するとなると、修習技術者の方たちと二次合格者の方たちでは相当に考えていることもニーズも異なるだろうし、どこにピントを合わせていいのか、かなり難しいことを実感しています。ちょっと辛口の感想になってしまいましたが、化学部会で何かを企画する側としてどうしようかと考えている立場として、是非参考にさせてもらおうという目で見ていますので、ご容赦願います。（化学部会）
・青年委員会では化学部会のメンバーも多数頑張っているとのこと、将来が楽しみです。彼らの熱意や積極性が化学部会でもうまく活きるような仕組みも考えていきたいと思っています。（化学部会）
・機械部門はずっと自分の部門のブースから動かなかった。他のブースも回ってくるよう促したが固まってしまい、ちょっと申し訳なかった。しかし、若い参加者とじっくり話が出来たのは非常に良かった（機械部会）

２．５．２．写真



会場レイアウト

技術士展

原子力・放射線部会

機械部会

化学部会

経営工学部会

電気電子部会

環境部会

青年委員会（体験談・国際交流）

桂氏・全国大会

２．６．閉会挨拶（16:30）

３．懇親会

有志にて懇親会を実施しました。ゲストの桂氏を交え、参加者の若手が中心に盛り上がりました。皆、それぞれの活動の場を求め、参加して来た人が多かった様に思います。お互いのキャリヤや今の仕事の内容、趣味等の話に花を咲かせ、有意義な交流を図ることができました。

４．所感と反省点

・準備はてきぱきと進んでプロジェクター、机とイスの配置、展示など大きな問題はなかった。
・各部会のブースは担当者があいまいな場所があり事前に明確化しておく必要があった
・プロジェクターの映りについて明るさ不足でやや見づらかった。
・野村貢氏の講演は途中２回ほど中座となったものの桂利治氏の質問時間に切り替えるなど危機対応ができていた。
・会場までの道順情報が不十分という声を参加者から頂いた。
（会場が 2 階だったことや、同じ建物に住宅への入口があったこと）
急遽、道案内のスタッフを配置することで対処した。
・会場は体育館のような設備だったため、照明のコントロールがうまくいかなかった。
・交流コーナーがオープンしている時間では、参加者がひとつのブースに集まりすぎたり、同じブースに長時間いるという参加者もいた。複数のブースを回れるような仕組みを準備しておくべきと感じた。
・少人数（1,2 人）で対応しているブースからは、1 時間 30 分しゃべり続けることは体力的に厳しいという声が聞かれた。
・青年委員会のスタッフ以外の、次期委員補佐候補の方にも、準備や司会をお願いし、委員会業務への理解を深めてもらった。

以上　（宮本 忠博　記）

支部交流活動報告

テクノツーリズム活動報告

担当委員
石関　学

1　概要

テクノツーリズム活動（以下、本活動と記載）は、全国の青年技術士組織の緩やかでかつ継続的な繋がりを構成すべく、06 年に北海道青年技術士協議会（当時）から発案された。前期までに、テクノツーリズムを構成する各地域のスポットデータ（以下、テクノスポットと記載）を収集し、ブログ形式のページを立ち上げた。しかし、使い勝手などの運用面から情報公開手段としては不十分だった。

今期は、青年委員会サーバの導入に伴い、本活動の専用ページを設置することができた。地図上からの情報閲覧を可能とすることで、前期の課題については解決することができた。

今後の課題としては、テクノスポットデータ収集の活性化、他支部との連携が挙げられる。

2　本活動の目的

テクノツーリズムの活動目的としては、下記 3 点を挙げることができる。

- 青年技術士交流実行委員会の目的の 1 つである全国交流を実践すること
- 実行主体を組織化することにより、全国の青年技術士（およびその OB）が、緩やかに繋がり続けられるようにすること
- 地域の貴重な（技術的な）資源・情報・取り組み等を全国発信するためのツールとすること

3　本年度の活動内容

3.1　サーバの選定から構築

本活動のページは、青年委員会のサーバの一部として構築した。サーバ構築については、「青年委員会サーバ構築報告」を参照のこと。

3.2　ページの概要

本活動のページの概要を下記に示す。

① 概観

インターフェースには Google 社提供の Google Map™ を採用し、地図上から視覚的に情報検索できることを目指した。（図 1）

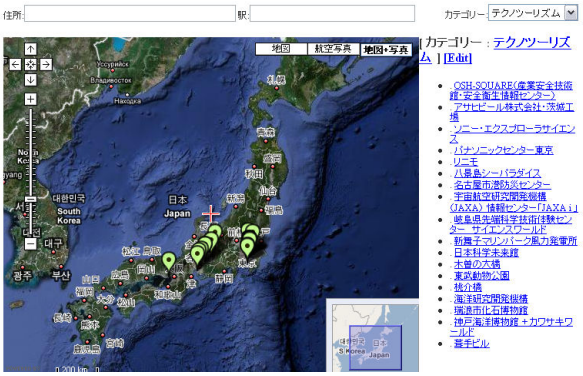


図 1：テクノツーリズムトップページ

② スポット情報の閲覧

マークもしくはスポット名をクリックすると、そのスポットの情報をポップアップするようにした。またそのポップアップの中に、収集した詳細情報へのリンクを設けた。（図 2）

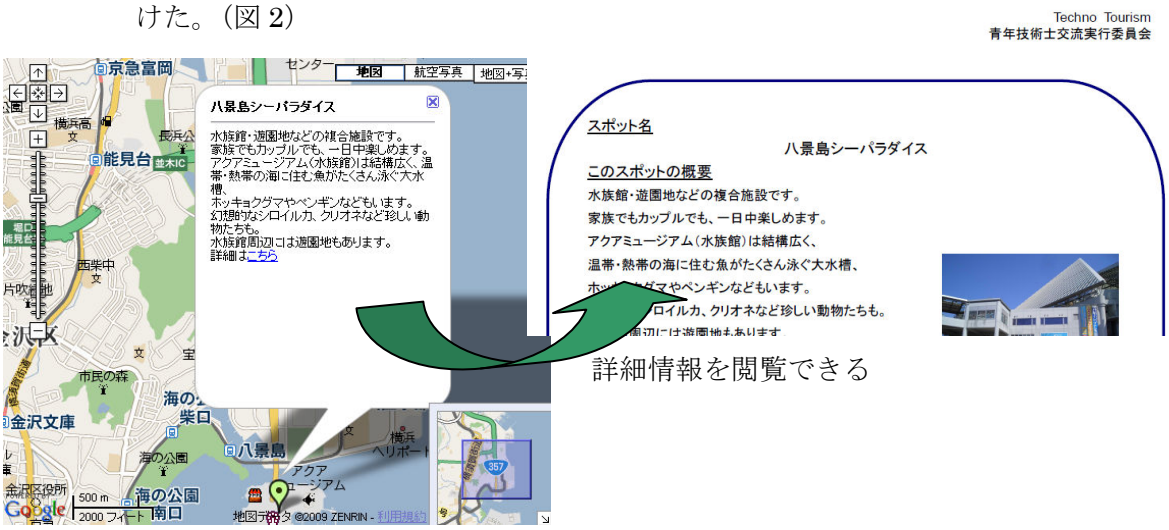


図 2：スポットの閲覧

3.3 収支関係

① 収入

なし

② 支出

5,980 円

- ドメイン更新代（～2010.4.21） 980 円
- サーバ更新代（～2010.5.7） 5,000 円

4 来期への課題

来期への課題としては、下記が挙げられる。

- 他支部との連携

  本活動は、北海道支部発案のテーマであったが、サーバ立ち上げまでは本部主体で動いてしまった。今後、北海道支部・他支部との連携を進めていく必要がある。

- テクノスポットデータ収集の活性化

  テクノスポットデータ収集体制を整える必要がある。そのデータを効率よく情報公開していくことも視野に入れる必要がある。

以上

全国大会（松江）青年本支部交流研修会　議事録（ダイジェスト版）

日時：　2008 年 10 月 18 日（土）9:30～11:10

場所：　ホテル一畑「菊の間」

出席：　北海道／丹治，奈良，田中，福岡

東　北／佐々木，渡邊，飯島

関　東／田村，中嶋（幸）

中　部／濱田，平松，大石，岡本，進，西垣

中・四国／中田，鈴川，森岡，荒本，宮里

島　根／大阪，小村

九　州／山田

資料：

0810-01　青年技術士　交流誌　2008（中・四国支部）

議事録：

１．青年冊子の説明（中田）

- 近畿支部の原稿が間に合わず，冊子には掲載されていない。
- 第 4 分科会　226 名の申し込みがあった。
- 新しい試みとして他己紹介を試みた。

２．フリーディスカッション

２．１．2010 年三重大会に向けて（中部支部　濱田）

再来年は三重県での開催が決まっているものの，経費が心配である。会計的な情報を開示・引継ぎさせてもらえないか。また予算の捻出方法も知りたい。

- 中・四国の青年の年間予算 10 万，全国大会の準備は手弁当＋青年冊子もホチキス止めのものにすることも考えた。
- 支部の予算では，支部内に使う名目でないと使えない。
- 分科会冊子は，大会参加費を払った人だけということで，青年冊子とは趣旨が異なる。
- 今回～再来年と全国大会予算が削減傾向。将来は半分程度になるのではないか。
- 民間はうまく出張を絡めることもできる場合があるが，公務員は旅費も工面が難しい。
- 中部青年は自主的な団体であるため，行事による収入を割り当てている。
- 支部の予算は会員であることが建前となるため，非会員が多いと予算が回らない。三重大会では，非会員を含む青年分科会の位置づけが議論になりそうだ。
- 島根県技術士会から，青年は活発に動けるよう支援を受けている。課題は参加者確保。
- 技術士会は青年に期待するというが，欲しい予算がなかなか付きにくいのが現状だ。その点は技術士会も少しずつ変えようとしている。

２．２．青年層技術士へ向けた情報発信について（九州支部　山田）

行事の広報にあたって，45 歳以下の会員を把握しているか？　どうやって知らせていくのか。技術士会の同報メールシステムもあるが，年齢別に送信できない。

- 事務局で，同報メールのシステムを変える方向性で検討してくれている。
- 北海道では独自のメーリングリストがある。
- システムを作るのは簡単，何を知らせるか，目的を明確にすることのほうが大切だ。
- 同報メールは非会員も登録者へは配信できる。
- 中・四国では，委員会と交流会にわけている。後者は非会員 OK である。
- システムより，名簿（技術士登録者）のデータベースがほしいが，無理のようだ。
- 月刊 PE へのチラシ同封もできなくなり，行事の郵送ができなく困っている。
- 北海道支部で郵送は対応してくれているが費用が馬鹿にならない。

２．３．各県技術士会とのチャンネル構築について（東北支部　佐々木）

各県技術士会の青年層との交流をどう実現しているか。東北での全国大会にあたり，当初秋田の案もあったが青年組織との連携をどうするか悩んだ。

- 中・四国は島根，山口に青年組織があり，幹事会で顔を合わせる機会がある。各県技術士会のトップが名簿を持っているから，面識を持つ努力が必要だ。
- 中部は各県に青年組織はない。再来年の全国大会では問題になる。
- 地道にチラシを配り，時間をかけて広める活動を続けてきた。
- 合格祝賀会（一次／二次）での勧誘が有効。幽霊会員であっても増やす。

３．2009 年仙台大会に向けて（東北支部　佐々木）

第 36 回　技術士全国大会　実施方針（案）は，松江大会資料でも紹介している。ウェルカムパーティは廃止され，今までと大きく変わる。今のところ，青年のセッションはない。

はじまる日の午前中は会議室あると言われている。第 4「新しい技術」の幹事に青年の桂氏が入っているので，青年のカラーを出すことも考えられるが，他部会との関係もあるため結論に至っていない。資料をみて，青年のやり方について意見をもらいたい。

- 全国大会の日程，15（木）午後～　は確定である。
- 土日に日程を組むことで，実務を持っている世代の参加者を増やすことが重要だと思う。松江大会以降，継続されるものと思っていた。
- 土日にかかると，会場費の問題が指摘されている。仙台国際センターに，先約があるのかも知れない。確認してみる。
- 三重大会は，金・土・日で開催する予定である。
- アンケートを作って青年層の要望を聞く予定，ご協力願う。

以上（中嶋幸宏　記）

支部青年組織名称	北海道支部　青年技術士交流委員会
代表者名・部門	（H20 年度） 氏　　名　　丹治　和博 部　　門　　建設部門、総合技術監理部門 （H21 年度） 氏　　名　　樋詰　透（写真） 部　　門　　建設部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	○平成 20 年度総会、講演会「儲かる、知的財産権」、5/21 ○テクニカルスクール（合意形成の手法－メディエーション－）、7/10 ○第 38 回日韓技術士会議（日韓親善サッカー大会）、9/28 ○理科系教育現場における支援事業（北海学園大学）、10/15 ○第 36 回技術士全国大会（島根大会）、10/17～18 ○見学・講演会「北方建築総合研究所が誇る北の技術」、10/24 ○テクニカルスクール（合意形成の手法－交渉学の基礎－）、11/28 ○理科系教育現場における支援事業（旭川工業高等専門学校）、2/19
今期の活動成果	①全国青年技術士との交流 全国大会には北海道支部青年技術士交流委員会から 4 名が参加、日韓技術士会議（親善サッカー）には北海道から 3 名の青年技術士が参加。 ②テクニカルスクールの開講 前年度に引続き第 3 回、第 4 回を開講し、のべ 38 名が参加。 ③北海道の技術、講演会 2 回の講演会（うち 1 回は見学会を併会）を開催し、のべ 57 名が参加。 ④理科系教育現場への支援事業 「大学へ行こう！」と題した理科系教育現場への支援事業として、北海学園大学、旭川工業高専で講演事業を実施。学生のべ 55 名が聴講。 ⑤EPO（エンジニアリング・パーク・オンライン）の運営 北海道の技術士 ML を運営し、5 月現在約 550 名が参加している。
今後の課題	○次世代を担う技術者育成 H20 から「大学へ行こう！」と題して、理系教育現場（大学）への支援事業を試行的に実施した。これを担う青年技術士が多忙な業務の中で、どのように継続的に取り組んでいくかが課題である。 ○修習技術者への支援、交流活動 現時点では特段の事業を実施していなく、今後の課題である。 ○技術士の社会的地位・社会認識の向上 H19 から講演会、テクニカルスクールの一般参加を受付けるともに、H20 からは理系教育現場への支援も試行的に行ってきたが、これらの事業の継続性が「技術士の社会的認知向上」の第一歩と考える。
その他、本部への意向等	○青年技術士の全国的な連携を実感できる体制と活動を今後も継続的に望みたい。本部支部交流の場を委員（委員補佐）に限定することなく、地方の青年技術士役員幹事が幅広く参加できるように工夫すると、さらに活動が活発になると思う。

支部青年組織名称	東北支部青年技術士懇会
代表者名・部門	 （H20 年度） 氏　　名　　佐々木　貢 部　　門　　建設部門 （H21 年度） 氏　　名　　開米　浩久（写真） 部　　門　　建設部門、農業部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	○幹事会（7 回） ・第 1 回幹事会　　4 月 9 日 ・第 2 回幹事会　　5 月 14 日 ・第 3 回幹事会　　7 月 30 日 ・第 4 回幹事会　　9 月 3 日 ・第 5 回幹事会　　10 月 8 日 ・第 6 回幹事会　　11 月 7 日 ○研修会（3 回） ・総会，第 1 回　研修会　6 月 6 日 **演題：第 1 部　倫理研究会からのご案内** **第 2 部　技術放談** **講師：江平　英雄　氏（技術士）** **大島　達治　氏（技術士）** **内容：－倫理研究会の活動に参加しんせんかー** **－先輩の智慧と次世代への期待－** ・技術士第 1 次試験合格ガイダンス　2 月 21 日 ○交流会（3 回） ・青年技術士交流実行委員会　交流会　6 月 28 日 ・日韓技術士会議派遣（新潟）　9 月 28 日 ・全国大会派遣（島根）　10 月 17 日
今期の活動成果	○研修会の実施 ○各支部との交流 ○東北各県青年技術士との交流 ○日韓会議、全国大会への参加 ○理科教育等への取り組み
今後の課題	○若手技術士（技術士補含む）の活動参加 ○平成 21 年度全国大会（仙台）の準備・支援 ○活動方針の改革
その他、本部への意向等	○本部、各支部との情報交換、及び活動状況の公開を目的として、本部ＨＰに各支部のページを設けることを要望いたします。

支部青年組織名称	北陸支部　青年技術士委員会
代表者名・部門	 （H20 年度） 氏　　名　　齋藤　真晴 部　　門　　建設部門 （H21 年度：5 月 31 日の支部総会より交代） 氏　　名　　大塚 直吉（写真） 部　　門　　建設部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	**【運営委員会】毎月（新潟市内）開催　出席者 5～8 名程度** 見学会・講演会等の各種行事の企画、支部行事への参加要請等を実施。 **【支部 4 県交流会】6 月 14 日～15 日（富山市）開催　参加者 12 名** 第 6 回拡大運営委員会 in 富山では、各県の取組状況や課題、今後のあり方等について討議。その夜の懇親会では、諸々に語り親交を深めた。 岩瀬町並み、北前船回船問屋「森家」、港展望台、薬種商の館「金岡邸」、及びますのすし本舗「源」工場を見学し、富山の歴史・文化に触れた。 **【第 38 回日韓技術士会議】9 月 28～30 日（新潟市）開催　　※本部行事** 青年委員会行事のウェルカムパーティー、日韓親善サッカー大会、及び第５分科会（テーマ：技術士会における青年層の課題）などの準備・運営を支援。 **【企業見学会】11 月 21 日（新潟市）開催　参加者 22 名** テーマ：「地域の活力・底力」～地域の誇れる企業～ 見学地：ナミックス株式会社本社、工場及び新研究所 上記について企画・実施 **【丸井杯サッカー大会】12 月 13 日（新潟市内）開催　参加者 20 名程度** 地域の大学と企業の有志で作る交流リーグの企画するサッカー大会に北陸支部有志チームとして参加。 **【関東支部とのサッカー交流】4 月 26 日（川崎市）開催　参加者 13 名** 本部主催のサッカーを通じたスポーツ交流にチーム北陸として参加。
今期の活動成果	**【スポーツを通じた交流】** 第 38 回日韓技術士会議の日韓親善サッカー大会での勝利を目標として、支部内で 36 名のメンバーが参加し、昨年の 5 月末から月 2 回のペースで練習を実施。このサッカーチームは、現在も各種大会に参加し、スポーツを通じ会員の輪を広げている。
今後の課題	**【次世代の人材発掘】** 北陸支部各県の青年委員会の円滑な運営、及び委員会を支えてくれる次世代の人材発掘により、委員業務の負担軽減と均等化を図る。
その他、本部への意向等	**【第 38 回日韓技術士会議の御礼】** 第 38 回日韓技術士会議（新潟市で開催）では、本部・支部よりたくさんの皆様に新潟へご参集いただき、ありがとうございました。

支部青年組織名称	中部青年技術士会
代表者名・部門	氏　　名　平松　明子（写真） 部　　門　環境（環境保全）・建設（建設環境）
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	■7 月例会；2008/07/05（中部企業内技術士懇談会・中部航空会との合同例会） 講演「民間旅客機の開発を目指して」 ■9 月例会；2008/09/06　「WG活動報告会」 ①建設WG：身近な土木遺産紹介８件 ②製造WG：太陽熱温水器の特性調査と高効率化に向けて ■10 月特例会；2008/10/29　「独立系（若手）技術士の仕事紹介　他」 フリートークのがやがや会 ■11 月例会；2008/11/29　「口答試験ではこんな事が聞かれる」 ワークショップ／グループ討論「専門家の視点、市民の視点」 ■1 月特例会；2009/01/21「私の一本、その酒の思い　他」　フリートークのがやがや会 ■2 月例会；　2009/02/21「WG活動報告会」 ①情報WG：情報系、知っていそうで知られてないこと ②環境WG：生物多様性について ■総会：2009/04/11 基調講演：「トライボロジー工学」 【例会以外】 ★第 35 回 技術士全国大会（松江）　2008/10/17(金)～20(月) 参加分科会；「青年技術士が考える地域社会」 ★第 38 回 日韓技術士会議（日本：新潟県）　2008/9/27(土)～9/29(月) 参加分科会；第５分科会『技術士会における青年層の課題』 その他行事；第 4 回日韓サッカー大会、日韓友好親善晩餐会
今期の活動成果	今期は、会員が主体的に関わる場として、新たに４つの WG を立ち上げ、例会で研究報告をする形にした。これにより、理事以外の会員、特に若い会員が積極的に発言・交流する機会を確保できた。 WG 活動は、会員の新たな活躍の場として、引き続き運用したい。
今後の課題	WG 活動は、まだ様子見の段階なので、参加者の意見を参考に随時改善したい。 支部の他の会との合同開催の打診は、中部企業内技術士懇談会以外は青年独自色を打ち出したいので断る方向でいるが、日程によっては参加者の奪い合いになるかもしれない。
その他、本部への意向等	来年の三重県大会の準備に着手しました。全国の皆様、ご協力をお願いします。

支部青年組織名称	近畿青年技術士懇談会
代表者名・部門	氏　　名　大氏　正嗣 部　　門　建設部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	・ 6/27：技術講演会「いざ、敷地境界線」和知三雄（士・環境） ・ 8/29：技術講演会「建築設備と省エネルギー」松江正（士・電気電子） ・9/25：技術講演会「MFCAによる原価低減と環境配慮」中嶌道靖（関西大学） ・ 10/25：見学会（大飯原子力発電所） ・ 11/22：大阪市大との合同フォーラム「創造都市と技術士」 「今、技術士に求められること」森川稔（滋賀県立大学：士・建設） 「ISO26000とコミュニティ開発」小島和彦（士・建設） ・ 12/18：技術講演会「中小企業の廃棄物や排水の削減」 山本攻（大阪市立環境科学研究所） ・ 1/30：技術講演会「並べるアルゴリズム，詰め込むアルゴリズム」 軽野義行（京都工芸繊維大学） ・ 3/28：ミニ講演会 「都市ごみ発生量予測モデルの提案と検証」酒井護（補・環境） 「これからの水道」岡田晃（補・上下水道） 「雷発生のメカニズムと雷保護について」馬場理一郎 「独立起業と技術士」藤本純一（士・応用理学） 「建設業のリスクアセスメント」）岩井孝志（士・機械） ・ 4/24：総会＆ミニ講演「製品含有化学物質への法規制・ユーザー要求・管理の方法」赤穂清隆（補・経営工学） ・ 5/29：新型インフルエンザの影響で休会
今期の活動成果	・大阪市大との合同フォーラム、大飯原発への見学会、大学教授による技術講演等、新たな企画を実施した。
今後の課題	・会員数の増 ・会員の参加意欲・参加満足度が高まるイベントへの工夫 ・ホームページの充実
その他、本部への意向等	・技術士の認知度を高める取り組み（マスコミ利用）について。

支部青年組織名称	中・四国支部　青年技術士交流委員会
代表者名・部門	（H20 年度） 氏　　名　　中田　圭吾（写真） 部　　門　　上下水道部門 （H21 年度） 氏　　名　　高木　周一 部　　門　　上下水道部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	6 月　総会「規約改定、新委員選出」 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力 7 月　例会及び勉強会「白熱電球・蛍光灯・ＬＥＤの原理並びにその考察」 8 月　例会及び勉強会「ブレーンストーミングの実践」 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力 9 月　例会及び勉強会「道路設計；路線選定の方法及び留意点」 見学会「広島市新球場（仮称）建設現場」 10 月 例会及び勉強会「最近の斜面緑化技術の問題点について」 第 35 回技術士全国大会（島根）「第四分科会」 国際交流フェスティバル(ぺあせろべ 2008)参加によるＰＲ活動 11 月 例会及び勉強会「地域貢献を目指した事業について」 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力 特別例会（第一部勉強会）「下水道事業と設計（管路）の実際」 （第二部座談会）「技術士の活動と役割について」 12 月 中・四国支部修習技術者支援セミナー協力(松山市出張セミナー) 1 月　例会及び勉強会「トンネル設備の機器割付（2)」 2 月　例会及び勉強会「下水道設計・施工におけるトラブル発生について」 中・四国支部技術士一次試験合格祝賀会でのＰＲ活動 3 月　例会及び勉強会「バイパスのルート比較について（その 2)」 4 月　例会及び勉強会「地形・地質から見たルート選定上の留意点」 中・四国支部技術士二次試験合格祝賀会でのＰＲ活動 5 月　例会及び勉強会「地震に対する建築設計の考え方」
今期の活動成果	・例会、勉強会等を通じて会員の拡大及び会の活性化を図る事ができた。 ・全国大会（島根）第四分科会
今後の課題	・地場固めとして、中・四国各県技術士会の青年部との連携強化。 ・今後の活動の発展と継続。
その他、本部への意向等	昨年の技術士全国大会（島根）では、本部及び各支部の皆様に御協力を賜り、盛会裡に終える事ができました。ありがとうございました。

支部青年組織名称	九州支部　第７部会
代表者名・部門	（H20 年度） 氏　　名　　山田　伸雄（写真） 部　　門　　建設部門 （H21 年度） 氏　　名　　持田　拓児 部　　門　　建設部門
これまでの活動内容 （2008.6～2009.5）	■「九州の産業・技術遺産」をテーマとして研鑽活動を実施した。 定例会：鐵づくりとエネルギーを支える土建水施設、西鉄大牟田線の開通までの歴史 見学会：八幡製鉄所とその歴史を支えた周辺技術 講演会：『鐵づくり・エネルギー輸送遺産と都会のオアシス』、『近代建築の保存方法と活用－北九州市を事例として』 ■社会貢献、技術士知名度向上のための活動を実施した。 小学生のための夏休み自由研究教室 修習技術者のための２次試験対策研修会
今期の活動成果	**■研鑽活動** 各技術士および技術士会が以下の活動を積極的に実施する。 ①自分が提供できる技術・ノウハウの再確認と活用 ②日本技術士会を通した社会への発信 **■社会貢献、技術士知名度向上への取り組み** ①小学生のための夏休み自由研究教室 ・子どもたちの技術に対する興味向上を図ることができた。 ・一般新聞に記載されることで、多少の認知度向上が図れた。 ・主催側に一般参加イベントの運営ノウハウが構築された。 ②修習技術者のための２次試験対策研修会 ・ニーズは非常に高い。 ・継続的に実施していく必要が感じられた。
今後の課題	**■研鑽活動** H20 年度の九州産業技術遺産の掘り起こしから、H21 年度は九州発新エネルギーをテーマとして研鑽活動を実施していく。 **■社会貢献、技術士知名度向上への取り組み** H21 年度以降も継続的に実施していく必要がある。
その他、本部への意向等	**■全国若手技術士との交流の活性化** ・支部から参加しやすい工夫 （旅費、支部長への認知、雰囲気づくり等） **■支部会員が直接意見を言える機会の増加** ・ネット上のコミュニティ等

国際交流活動報告

国際交流総括

副委員長
松本正人

１．国際交流活動の趣旨

アジア・太平洋地域を中心に諸外国の若手技術者と相互交流を図り、会員に対して国際交流及び研鑽の機会を提供することを目的に活動を実施した。

２．平成 20 年度の活動内容

平成20年度は、昨年度から継続して日韓、CAFEO/YEAFEO、豪州、香港の4つを柱として、精力的に活動を行った。

(1) 日韓技術士会議青年分科会、親善サッカー大会を共催（新潟市／2008年9月）

日韓技術士会議は、日韓技術士会議実行委員会と連携し、青年分科会および親善サッカー大会を滞りなく開催した。

(2) CAFEO/YEAFEO派遣（タイ・バンコク／2008年11月）

CAFEO/YEAFEOは昨年に引き続き青年技術者を派遣すべく準備していたが、当日の空港占拠により参加が実現しなかった。公募にて選ばれた派遣者が青年委員会スタッフとして継続活動しており、委員会活動への興味付けのためにも有効な企画であることが立証された。

(3) オーストラリア青年委員長を招待（2008年6月～７月）

オーストラリア技術士会青年委員長の来日により、日豪の若手技術者間の交流が活性化したとともに、日豪技術士会間の関係強化にも繋がった。

(4) 香港行程師学会（HKIE）および土木土木技術者協会（ICEHK）を訪問（2008年8月）

香港の若手技術者との関係を強化し、今後も香港との交流を定期的に実施していくことが確認できた。

(5) 海外交流成果発表会を開催（2008年12月）

海外交流の成果を広く共有するため発表会を開催し、さらに、技術士会における海外への技術者派遣に際しての危機管理のあり方について参加者全員で議論を行った。

(6) マレーシア技術者との交流（2009年3月）

マレーシア技術者協会の青年委員会の方が来日された際、東京において交流会を実施した。

４．今後の活動・展開

日韓技術士会議において、青年技術士の活動が持続可能なものになるよう、その活動スキームの構築と韓国青年技術士との交流強化に努める。

CAFEO/YEAFEO は、青年委員会の交流活動において唯一の多国間交流の場である。公募派遣を継続実施し、ASEAN 加盟国を中心として交流を深化させる。

オーストラリアとの相互訪問が定着し、日豪青年技術士会の間で今後の交流の方向性について文書で確認した。今後は、それを更に発展させて日豪ビジネスにおける利益の増進にいかにして発展させるかが検討課題である。

香港との交流も互いに相手国を訪問して交流を深めるという活動スキームが定着しつつあり、今後は会員へフィードバックを考慮した交流を実施していく。

上記のほか、さまざまな機会をとらえて国際交流チャンネル開拓の模索を続け、日本技術士会会員・準会員の国際交流の機会を数多く創出していけるよう努める。

以上

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	2008 年 6 月豪州交流
担当メンバー	掛川 昌俊（リーダ），松本 正人，前田 秀一，新井 靖典，石関 学
行事概要	【Ms. Anntonette Joseph（Young Engineers Australia, Chair）招待交流】 ※Anny は 6/25～7/3 の日程で来日し、下記すべての行事に参加した。 ■品川女子学院「環境問題」特別講座 日時：2008 年 6 月 27 日（金） 16：00～17：30 場所：品川女子学院 参加者：品川女子学院生徒，㈱ファーストエスコ ■拡大運営委員会および Welcome Dinner 日時：2008 年 6 月 28 日（土） 13:00～20:00 場所：日本技術士会会議室 A,B(葺手第二ビル 5 階) ゲスト：井出宏政策委員会副委員長，畑尾成道国際特別委員会委員長・橋本義平同委員 参加者：本部スタッフ 18 名，支部スタッフ 8 名，支部オブザーバー 6 名，他 7 名 ■本支部交流研修会 日時：2008 年 6 月 29 日（日） 9:00～12:00 場所：きゅりあん(品川区立総合区民会館) ５階第３講習室 ゲスト：三好正夫科学技術基本計画支援実行委員会副委員長 参加者：本部スタッフ 14 名，支部スタッフ 3 名，支部オブザーバー 7 名，他 4 名 ■テクニカル・ツアーおよびカルチャー・ツアー 日時：2008 年 6 月 29 日（日） 13:00～20:00 場所：日本科学未来館，大江戸温泉 参加者：スタッフ 5 名，協力者 1 名 ■東京観光ツアー 日時：2008 年 6 月 30 日（月） 9:50～15:00 場所：東京タワーと浅草・隅田川下り 参加者：スタッフ 1 名 ■Call to the Australian Embassy with Australian Engineer 日時：2008 年 7 月 1 日（火）10:00～11:00 場所：豪州大使館 参加者：スタッフ 1 名 ■テクニカル・ツアー 日時：2008 年 7 月 1 日（火）午後 場所：横浜火力発電所 参加者：スタッフ 2 名 環境に配慮した高効率コンバインドサイクルを見学 ■Farewell Dinner 日時：2008 年 7 月 1 日（火）19:00～22:00 場所：魚亀（港区東麻布 2-12-3） 参加者：スタッフ 6 名 ■日本技術士会表敬訪問 日時：2008 年 7 月 2 日（水）10:00～11:00 場所：日本技術士会事務局 参加者：スタッフ 1 名
活動内容	（別紙報告）
成果と所感	（別紙報告）
今後の展開	（別紙報告）

豪州技術士会青年委員会（Young Engineers Australia）との交流

実施報告

日本技術士会　青年技術士交流実行委員会

１．招聘者氏名

Ms Anntonette Joseph

Young Engineers Australia, Chair

２．行程

6.25（水）	豪州発
6.26（木）	日本着　ホテルへ
6.27（金）	品川女子学院、「環境問題」特別講座参加
6.28（土）	ホテルに迎え、事前打合せ 拡大運営委員会 Welcome Party
6.29（日）	本支部交流研修会 テクニカル・ツアー（日本科学未来館、大江戸温泉）
6.30（月）	「東京観光ツアー」東京タワーと浅草・隅田川下り
7.1（火）	Call to the Australian Embassy with Australian Engineer テクニカル・ツアー（横浜火力発電所(高効率コンバインドサイクル)） Farewell Dinner
7.2（水）	日本技術士会 表敬訪問 日本発
7.3（金）	豪州着

３．実施内容

３－１　品川女子学院「環境問題」特別講座

日時：2008 年 6 月 27 日（金）　16：00～17：30

場所：品川女子学院

講師：田村他㈱ファーストエスコ社員 2 名（渡辺、川見）

ゲスト：Ms. Anny Joseph

内容：

1. 自己紹介（環境ビジネスに携わるまでの経緯）
2. 環境問題総論（田村）
3. ESCO 事業について（渡辺）
4. コージェネレーションと地域冷暖房システムについて（川見）
5. 豪州の環境問題について（Anny）

㈱ファーストエスコが取り組んでいる環境教育活動の一環として、品川女子学院への特別講座を Anny さんの来日日程に合わせることができ、参加していただいた。

具体的な環境ビジネスについて技術者が実績も含めて話したこと、豪州の環境系技術者かつ女性の Anny さんが話したため､生徒も熱心に聴講していた｡スピーチは英語であったが、分かりやすく話してくれたため生徒も概ね理解していた。

Anny さんから、『日本の女子学生は放課後も勉強して大変熱心である。豪州には環境の技術者が少ないので、たくさん勉強して環境のエンジニアになって、是非オーストラリアに来てください！』との言葉に、生徒達は笑顔で答えていた。また、今回の講座で技術士や環境問題を身近に感じてくれたこと、技術者のグローバルな活動について憧れを抱いてくれたようで、双方の国にとって非常に有意義な時間を持てた。

３－２　拡大運営委員会および Welcome Dinner

日時：2008 年 6 月 28 日（土） 13:00～20:00

場所：日本技術士会会議室 A,B(葺手第二ビル 5 階)

内容：

青年技術士交流実行委員会の拡大運営委員会の中で、Anny さんに「Young Engineers Australia の活動報告」というタイトルの報告をいただいた。

Young Engineers Australia とは、Engineers Australia（豪州技術士会）の青年の部であり、日本技術士会 青年技術士交流実行委員会のカウンターパートに当たる組織である。活動報告の中で、組織、年間の活動概要などについて紹介があった。

豪州は広大な国土を有しているため、Engineers Australia の全支部が集まる会合を持つだけでもかなりの移動距離が必要とのことであった。本日の拡大運営委員会で試行された「ネットミーティング」は、豪州でも活用していきたいとのコメントがあった。

また講演の途中で、紙ヒコーキを誰が最も遠くまで飛ばせるかを競うコンテストが行われた。Engineers Australia でもよく実施されているコンテストとのことであった。

最後に、豪州ではエンジニアの数が不足しており、海外からのエンジニアの受け入れを積極的に行っていることに触れられた。日本のエンジニアの皆さんもぜひ豪州に来て仕事をしてほしいとのメッセージを残された。

次に、日本の青年委員会の活動報告として、各支部の代表者から 15 分ずつの発表があった。ディスカッションの中で、会員拡大に関することが話題となった。北海道支部からの問題定義として、地方部では東京に比べて享受できる会員サービスが少ないため、会員になるメリットが少ないので会員数を十分に確保できないという点が挙げられた。これに対して、豪州でも同様の問題点を抱えているとの発言があった。会員拡大と活動の活性化対策として、豪州では学生会員の会費を無料にして会員数を確保し、社会人に比べて時間に余裕のある学生に積極的に活動の企画運営に携わってもらうことで運営体制を強化しているとの報告があった。ところが、日本の場合は技術士第一次試験に合格するか JABEE 認定課程を修了して修習技術者にならなければ技術士会の準会員になることはできないので、学生会員の会費を無料にすることによる効果は豪州ほどには期待できないかも知れない。

夕方より、同じく葺手第二ビル 5 階会議室 A/B で立食パーティ形式の Welcome Party が行われた。

パーティは、特別ゲストとして招待された国際特別委員会の畑尾成道委員長の開会挨拶で始まり、歓談の後、日豪両国の青年委員会の代表者によるプレゼント交換が行われた。直前の拡大運営委員会にて次期委員長に任命された田村委員長と、豪州の Anny 委員長によるプレゼント交換セレモニーの後、特別ゲストの氷上澄子氏（特定非営利活動法人　女性技術士の会、理事長）によるスピーチが行われた。

３－３　本支部交流研修会

日時：2008 年 6 月 29 日（日） 9:00～12:00

場所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)　５階第３講習室

内容：

本支部交流研修会では、はじめに「グローバルエンジニアへの道」というテーマでのパネルディスカッションが行われた。豪州の Anny さんによる「The Global Engineer」と題した話題提供に続き、日本の松本委員による「グローバル社会における日豪技術士の役割」と題した話題提供が行われた。

Anny さんからは、下記の流れで話題提供があった。

1. What is a global engineer?
2. Steps to be a global engineer
3. Work being done internationally
4. Japan and Australia input
5. My personal belief

Washington Accord、APEC Engineer、The Engineers Mobility Forum などの国際技術者資格に関する話題、地球温暖化や貧困などの問題を取り上げ、我々エンジニアは「Think Globally, Act Locally」の精神で行動しなければならないという提案がなされた。また、グローバルエンジニアになるための資質として、技術力以外に文化に関する理解、語学力、リーダーシップといった能力が必要であるという提案があった。そして、このようなスキルを身につけるための手段の一つとして、国際会議の場を通じての若手技術者同士のコミュニケーションが必要であるとともに、日本と豪州は互いに国際社会でリーダーシップを発揮して行かなければならないという提言がなされた。最後に、具体的な提案として、国際交流を積極的に行っている豪州、日本、マレーシア、香港、シンガポールの 5 カ国の技術士会がアジア太平洋地域でリーダーシップを取り、同地域の技術者相互のコミュニケーションを活発化させていくことが提議された。

続いて、松本委員から同じく APEC Engineer Project、EMF (Engineering mobility Forum) といった技術者資格の国際化に関する背景の説明があり、技術者の能力にはグローバルスタンダードというものが存在するという話題提供からプレゼンテーションが始まった。若手技術者がこのような能力を獲得するためには、国際交流を通じて他国の技術者とコミュニケーションを図ることが非常に有効であり、日本技術士会青年委員会の国際交流に関するミッション・ステートメントに関する説明がなされた。

続いて、青年委員会の国際交流活動について具体例として、豪州・韓国・アセアン諸国・香港との交流を実施していることが紹介された。最後にまとめとして、グローバル化が進む現代においては技術者の国際流動性の確保は必須であること、日豪の技術士はアジア太平洋地域においてリーダーシップを発揮していくべきであること、両国の青年技術士は、「優れた技術力・優れたコミュニケーション能力・確かな技術者倫理」の 3 つの能力を身につけるべく CPD に励む必要があること、そして、それらの能力を身につけるためには国際交流活動が有益であることが述べられた。

その後、前田委員が座長を務めて「グローバル社会において国際交流はどうあるべきか」

というテーマでのパネルディスカッションが行われた。議論の中で、グローバルエンジニアに必要な資質のうち、「コミュニケーション・スキル」が話題となった。松本委員から、コミュニケーション・スキルとは単なる外国語の習熟度に留まらず、相手を理解し互いに意思の疎通を行うヒューマンスキルであるという回答があり、Anny さんも会場の参加者もそれに賛同した。また、コミュニケーション・スキルの一つとして国際社会でも通用する会話のルールについても話題となり、相手の話を最後まで聞き、他人の意見を尊重するという姿勢が必要であるという提案がなされた。Anny さんは、人間には耳が 2 つあるが口は 1 つしかないので、全体の 2/3 の時間は聞く時間とし、残りの 1/3 の時間で話すようにした方がよいという提案があった。

最後に、フロアから JICA（国際協力機構）のような組織と技術士会との連携に関する提案があった。豪州では、Red-R と呼ばれる組織が国際協力を実施しており、これらの組織との連携により技術者派遣の財政的裏付けが得られる可能性があるという意見が出た。

３－４　テクニカル・ツアーおよびカルチャー・ツアー

日時：2008 年 6 月 29 日（日） 13:00～20:00

場所：日本科学未来館、大江戸温泉

内容：

テクニカル・ツアーとして、日本科学未来館の見学を行った。1.「地球環境とフロンティア」未来の新たな自然観、2.「生命の科学と人間」将来の生命観、3.「技術革新と未来」将来の物質システム観、4.「情報科学技術と社会」将来の情報世界観の 4 つの常設展示を見学した。さらに、Anny さんに日本文化を体験していただくため、大江戸温泉物語で温泉入浴および浴衣を着ての交流を実施した。

３－５　東京観光ツアー

日時：2008 年 6 月 30 日（月） 9:50～15:00

場所：東京タワーと浅草・隅田川下り

内容：

東京の名所を巡るため、はとバスツアーに参加して東京タワーと浅草・隅田川下りを実施した。（遂行：松本委員）

３－６　Call to the Australian Embassy with Australian Engineer

日時：2008 年 7 月 1 日（火）10:00～11:00

場所：豪州大使館

内容：

Anny さんの豪州大使館訪問に、日本から掛川副委員長が同行した。大使館では、政策担当公使の BRUCE MILLER 氏に対応していただき、下記のようなやり取りがあった。

- Engineers Australia の活動報告、日豪交流のこれまでの経緯を説明。
  （Anny さんがパソコンでプレゼンテーション実施）
- 日本の青年委員会の H 19 年度の活動報告の説明（掛川副委員長）
- 日豪交流の今後の取組みについて PR

・ 豪日交流基金について説明を受ける。

３－７　テクニカル・ツアー

発電所の効率の高効率化について説明を受けた。また。高効率コンバインドサイクルの構成について説明を受け、なぜ効率が高い（54%）のかを理解した。発電所内の Central operation room、各種設備を見学して発電所の規模、メンテナンス体制等について説明を受けた。最後に Stack（排気塔）の上部にある展望室（高さ 180m）から東西南北の View を楽しんだ。

３－８　Farewell Dinner

日時：2008 年 7 月 1 日（火）19:00～22:00
場所：魚亀（港区東麻布 2-12-3）
内容：

青年委員会のメンバー6 名を Anny さんで「魚亀」で最後の別れを惜しんだ。

３－９　日本技術士会 表敬訪問

日時：2008 年 7 月 2 日（水）10:00～11:00
場所：日本技術士会 事務局
内容：

掛川副委員長の随行で、日本技術士会を表敬訪問した。新専務理事の高木譲一氏、吉井氏、三上氏に対応して頂いた。

30 分程時間を頂き専務理事室で日豪交流の今までの経緯を高木専務に説明し、続いて、アニーさんがパソコンを使ってプレゼンテーションを実施し、質疑、討論、記念撮影をおこなった。おもな内容は、下記の通りである。

(1) 拡大運営委員会で実施したネットミーティングは広い豪州では集まるのに時間とお金がかかるので有効ではという話が出た。

(2) 高木専務理事から、技術士の地位向上には、先日でたばかりの「研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化および研究開発等の効率的推進に関する法律案」が有効に機能していくのではというお話を頂いた。

(3) 豪州の CPD 制度、試験制度につて議論がなされた。豪州ではペーパー試験はないが、とてもきびしいインタビュー試験があるようである。

最後に、Anny さんからプレセントが贈呈され、記念撮影を行った。

４．おわりに

1 週間にわたり、豪州技術士会青年委員会代表の Anny さんとのディスカッション、情報交流を実施した。日豪技術士会の青年委員会が抱える共通の問題点の確認や、グローバル社会における日豪技術士の役割などについて、非常に有益な情報交流ができた。

今後も両国の青年委員会では、技術士会の関係部署と連携し、アジア太平洋地域でリーダーシップを発揮して国際社会への積極的な貢献を行っていくことを確認した。

香港若手技術者との交流

副委員長
松本正人

１．これまでの経緯

日本技術士会青年技術士交流実行委員会では、香港の若手技術者との交流基盤を構築するため、2007 年 10 月 31 日に香港 ICE（Institution of Civil Engineers)の訪問団を受入れ、香港の若手技術者との交流を本格的開始した。

また、2007 年 11 月 26 日から 29 日にかけてフィリピン・セブ等で行われた YEAFEO-14 において、香港工程師学会（The Hong Kong Institution of Engineers）の代表団との交流を深め、人的ネットワークの構築を行った。

２．香港交流の目的

香港の若手技術者との交流の目的は、下記のとおりである。

(1)日本と香港の若手技術者のネットワークの構築

(2)日本技術士会および青年委員会の知名度向上

(3)日本と香港のビジネスにおける利益の増進

今回の香港訪問は、日本技術士会青年技術士交流実行委員会から香港工程師学会および香港 ICE を訪問し、特定テーマについてディスカッションするとともに、今後継続的な国際交流を実施していく枠組みを構築することを目的に実施した。

３．行程

当初は、表 1 に示す行程で実施する予定であったが、8 月 21 日の夜から 8 月 22 日にかけて超大型台風が香港を直撃し、8 月 22 日の予定が全て中止となった。

現地で先方と対応を協議し、予備日として確保していた 8 月 23 日に予定を再設定していただくことができた。

年月日	行程
8 月 21 日（木）	東京発 → 香港着
8 月 22 日（金）	テクニカル・ツアー（ICC: International Commercial Centre） 香港工程師学会 & 香港 ICE の若手技術者とのミーティング （プレゼンテーション、ディスカッション）※ Dinner Party
8 月 23 日（土）	予備日、カルチャー・ツアー
8 月 24 日（日）	帰国

※プレゼンテーション：青年委員会の活動報告

ディスカッション：'The role of young engineers in Hong Kong and Japan in the age of globalization.'というテーマでディスカッション

４．派遣者氏名

日本から下記の 3 名の若手技術者を香港に派遣した。

・松本正人（青年委員会　副委員長）

・鈴木史人（青年委員会 担当委員）

・長内沙織（青年委員会 委員補佐）

５．実施内容

５－１　テクニカル・ツアー

日時：2008 年 8 月 23 日（土）　9:30～12:00

場所：ICC: International Commercial Centre （地下鉄 MTR　Kowloon 駅前）

随行：香港工程師学会 Young Members Committee のメンバー約 30 名

内容：

(1) ICC のプロジェクト概要、ビルの建設技術に関するプレゼンテーション（プロジェクトを実施している SHKP 社より説明）

(2) ICC ビルの見学（19F フロアにて）

ICC は、MTR Kowloon 駅前の再開発事業の一環として建設されている、地上 118 階、地下 4 階の大型商業施設である。完成すると高さは 485m となり、香港で最も高いビルとなる。現在、柱、床、壁の工事がほぼ完成し、これから内装工事に取り掛かるとのことであった。壁の施工には移動式型枠施工法（Climb-form Construction Method）が採用され、型枠が徐々にジャッキアップされてビルの上層階へと施工を進めていく方式であった。また、コンクリートは骨材の配合を変えることで高強度にしたものが使用されていた。

最後に、説明して下さった Nelson L. O. Chu 氏に記念品を渡し、訪問を終了した。

５－２　ディスカッションと Dinner Party

日時：2008 年 8 月 23 日（土）　20:00～22:30

場所：地下鉄 MTR 「Tsim Sha Chai 駅」付近レストラン

内容：

当初、8 月 22 日に香港工程師学会および香港土木技術者協会を表敬訪問し、会議室でパワーポイントを用いて実施する予定であった。ところが、超大型台風の上陸に伴い予定がすべて中止となったため、翌日に延期することにした。

翌日の 8 月 23 日は土曜日であったことから、香港工程師学会および香港土木技術者協会の表敬訪問は中止となり、また会議室も使用できなかったことから、パワーポイントの内容を紙に打ち出して資料として配布し、レストランで着席した状態で互いのプレゼンテーションを実施することとなった。

はじめに、香港工程師学会の YMC（Young Members Committee）の Trevor C W Tang 委員長より、YMC の活動報告についてプレゼンテーションが行われた。

YMC とは、香港工程師学会の青年委員会であり、日本技術士会 青年技術士交流実行委員会のカウンターパートに当たる組織である。香港工程師学会の 35 歳以下の会員が対象となる。活動報

告の中で、YMC の組織、年間の活動概要などについて報告があった。

次に、香港土木技術者協会の YMC の Sam Lee Hung Yik 委員長より、YMC の組織、年間の活動概要などについて報告があった。

続いて、日本の青年技術士交流実行委員会のプレゼンテーションに移った。「グローバル社会における日本と香港の若手技術者の役割」と題して話題提供を行った。なお、青年技術士交流実行委員会の活動報告として準備したスライドショーについては、パワーポイントが使えなかったことから、紙に印刷したものを回覧することで紹介するに留めた。

日本側のプレゼンテーションでは、APEC Engineer Project、EMF (Engineering mobility Forum)といった技術者資格の国際化に関する背景の説明を行い、技術者の能力にはグローバルスタンダードというものが存在するという話題提供から説明を開始した。続いて、我々若手技術者がこのような能力を獲得するためには、国際交流を通じて他国の技術者とコミュニケーションを図ることが非常に有効であることを説明し、青年委員会の国際交流活動について具体例として、豪州・韓国・アセアン諸国・香港との交流を実施していることを紹介した。

最後にまとめとして、グローバル化が進む現代においては技術者の国際流動性の確保は必須であること、両国の青年技術士は、「優れた技術力・優れたコミュニケーション能力・確かな技術者倫理」の 3 つの能力を身につけるべく CPD に励む必要があること、そして、それらの能力を身につけるためには国際交流活動が有益であることを述べた。

プレゼンテーションの後、食事を取りながら上記テーマについてのディスカッションを行った。

香港工程師学会の青年委員会は、豪州、マレーシア、中国本土の二国間交流を頻繁に実施しており、また、毎年の YEAFEO（Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organization）会議にもゲスト国として代表団を送り込むなど、国際交流を積極的に展開している。国際交流の目的は、国際感覚の育成等の若手技術者の研鑽であり、CPD の一環として国際交流の重要性を強く認識している。したがって、香港の若手技術者からは、エンジニアの国際流動性の重要性については賛同する声が多く聞かれた。しかしながら、技術者資格の国際同等性の確保については、現時点ではそれほど必要性を感じていないようであった。

また、彼らは日本との二国間交流に以前から興味を持っていたようであった。しかし、以前はコンタクトポイントが分からなかったことから交流を開始することができなかったようである。今後は、今回強化した人的ネットワークを生かして日本との二国間交流を活性化していきたいとの意思表示をいただいた。

その後レストランで歓談を行い、両国の若手技術者の将来について有意義な情報交流を行った。最後に、香港工程師学会 YMC、香港土木技術者協会 YMC の代表者とのプレゼント交換を行い、記念撮影を行ってミーティングを終了した。

なお、会合の途中で香港土木技術者協会 Chairman の K W Lee 氏が我々に歓迎の言葉を述べるために顔を出して下さった。名刺交換をした後、今回の我々の訪問受け入れに対する感謝の意を述べた。

５－３　カルチャー・ツアー

日時：2008 年 8 月 23 日（土）　13:00～19:00

場所：お寺（黄大仙）、Stanley、その他香港市街散策

内容：

香港の歴史、文化と風土について学ぶため、カルチャー・ツアーを企画していただいた。市内の移動には地下鉄 MTR とバス、フェリーなどの公共交通機関を利用し、香港の街の様子を観察できるように配慮していただいた。

はじめに、黄大仙というお寺を訪問し、その後、バスで Stanley という街に移動した。Stanley は、香港でも有数のリゾート地であり、欧米系人種の姿が目立った。観光客向けのマーケットで土産物などを購入した。

夕方になり、香港市街に戻って散策した後、ローカル・フードなどを楽しむことができた。香港の皆さんが代わる代わる案内役として随行して下さり、道中で多くの会話を楽しむなど大変充実したカルチャー・ツアーであった。

６．おわりに

短い期間であったが、香港の若手技術者とのディスカッション、情報交流は非常に充実したものであった。

今回の香港訪問で得られた成果：

(1) 日本技術士会青年委員会の活動内容をアピールし、今後も国際活動にも積極的に取り組んでいくという姿勢を示すことができた。これにより、日本技術士会青年技術士交流実行委員会の知名度の向上に寄与することができた。

(2) 香港工程師学会、香港土木技術者協会の若手技術者との関係を強固にし、今後も日本技術士会青年委員会との継続的な交流を行っていくことを確認した。また、今回の訪問で香港との関係を個人的な繋がりに頼ったものから組織的な関係に発展させることができ、今後の二国間交流の基礎を構築することができた。

今後の取り組み：

(1) 国際交流は、若手技術者のスキルアップや国際感覚を養うという意味で有意義であるので、今後も可能な限り多くの会員・準会員に国際交流の機会を提供していく。

(2) 特定の人物だけが関係を継続するのではなく、委員会組織として継続的に国際交流ができるようなスキームを構築していく。将来的には、組織としての人的ネットワークを利用した日本と香港のビジネスにおける利益の増進につなげていく。

(3) 国際交流を円滑に実施できるだけの語学力と国際感覚を身につけるための研鑽メニューを充実させ、日本の若手技術者の国際交流活動を活性化していく。

以　上

青年技術士交流実行委員会　平成 21 年度活動報告

行事名	日韓技術士会議
担当メンバー （〇印:リーダ）	内藤竜治〇, 斎藤正晴, 松本正人
行事概要	日　時:平成 20 年 9 月 28(サッカー)、29 日(第五分科会) 場　所:新潟市陸上競技場、ホテル日航新潟 参加者:サッカー参加者　約50名, スタッフ　約10名
活動内容	1. 今年の日韓技術士会議は日本、新潟で開催された。今年で38回目という長い歴史を有するこの交流会は、日韓委員会によって主催され、青年委員会は第五分科会と親善サッカー試合を任されている。サッカー試合の会場準備は新潟現地のスタッフを中心に進めてきた。東京でもフットサルチームを結成し、日々練習を重ねてきた。 2. 今年の日韓技術士会議のテーマは、『「東北アジアの発展のための技術士の役割」 物・知・人の交流に向けて』であった。第五分科会では、日韓双方のメンバーによる講演と、パネル討論を行った。分科会のテーマは、「日韓技術士会における青年層の課題」であった。パネリストは韓国の朴青年委員長、日本の中藤氏、渡邊氏の3名にお願いし、日韓両国における青年層の課題について話題提供していただいた。中藤氏からは若手技術者が抱える問題、渡邊氏からは海外プロジェクトを通じて得られた教訓およびコミュニケーション能力に関する話題提供があった。朴氏の講演では、技術士会会員の約半分を占める青年層(49歳以下)の活動および課題に関する話題とCPDに関する話題提供が行われた。パネル討論は50分程度行われた。コミュニケーションの手段と互いの制度の相違点が大きな話題であった。パネル討論では笑いもあり内容的にも良いものであった。 3. 以下に、親善サッカー大会終了後の記念写真と、分科会終了後の記念写真を示す。
成果と所感	サッカー試合当日、新幹線に大幅な遅れが生じたが、最終的には 50 名近くが参加し大いに盛り上がった。第一試合(公式戦)では新潟の皆様に活躍していただいた結果、1-1 の引き分けと善戦した。ゲーム終了後のウェルカムパーティには日韓両国から 100 名以上が参加し、多くの方が来年のインチョンにも参加すると約束してくれた。今まで準備してきたことが実を結んだ結果であろう。試合で勝つことよりも、サッカーを通じた交流の輪が広がり来年につながったことが重要であったという意見も多い。 第五分科会の議論は英語での発表という慣れない環境で行ったが、お互いに奮戦しつつも無事に行うことができた。その討論を行う過程でお互いの懇親を深めることができた。第五分科会の成功のため、多大なるご支援とご助言をいただいた方々に心から感謝の意を申し上げたい。
今後の展開	次回、第 39 回の日韓技術士会議は、韓国・仁川(インチョン)での開催が予定されている。次回は韓国技術士会による主催であり、サッカー試合と第五分科会も予定されている。双方のスタッフの交代などもあり、本年までに構築してきた人脈や相互の連携に加え、新たな人脈や関係を構築していく時期であると認識している。 今後は特定のメンバーに過度な負担がかからないような持続可能な関係を築いていくことや、よりよい連絡手段の構築、両国の経済状況や国際情勢などを勘案して適正な規模を考えることが重要であるという意見もある。

日韓技術士会議サッカー及び第 5 分科会報告書

青年技術士交流実行委員会

１．はじめに

青年技術士交流実行委員会（以下、青年委員会）は、韓国青年技術士会青年委員会（以下、韓国青年委員会）と協力し、第 38 回日韓技術士会議において親善サッカー大会および第 5 分科会を実施した。これらのイベントとウェルカムパーティ、および晩餐会などを通じて日韓青年の交流を図ることができ、現韓国青年委員長および次世代の執行部候補者らをはじめ多くのメンバーと交流することができた。来年以降の新しい関係を築くための基礎ができ、懇親という本来の目的が達成できたと考えている。

また、今大会においてもユニフォームの追加発注などのために多くの方々にご寄付を頂きました。日韓委員会の皆様をはじめ本大会の運営に多大なるご厚意とご尽力をいただいた方々に改めて深く感謝申し上げます。

２．親善サッカー大会

新幹線の遅れにより東京から参加したメンバーは公式戦（第一試合）に間に合わなかったが、メンバーは徐々に到着し、最終的には 50 名近くが参加し大いに盛り上がった。公式戦では新潟の皆様に活躍していただいた結果、1-1 の引き分けと善戦した。日本の MVP にはフットサルの藤井氏が選ばれた。

ゲーム終了後のウェルカムパーティには日韓両国から 100 名以上が参加し、多くの方が来年のインチョンにも参加すると約束してくれた。今まで準備してきたことが実を結んだ結果であろう。試合で勝つことよりも、サッカーを通じた交流の輪が広がり来年につながったことが重要であったという意見も多い。

善戦する日本チーム

集合写真（全試合終了後）

３．第５分科会

第 5 分科会は講演とパネル討論を行った。日本の講演は倉井氏「日本の青年技術士の現状と青年委員会の取り組み」、韓国側は全（Jeon）氏「The Global Challenges and Future Overview」、白（Back）氏「Introduction of KPEA」であった。

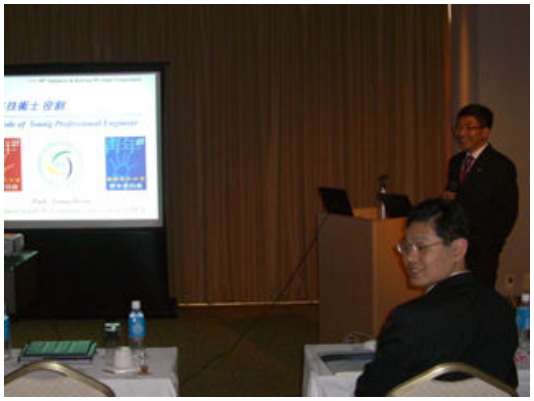
パネル討論のテーマは、「日韓技術士会における青年層の課題」であった。パネリストは韓国の朴委員長、日本の中藤氏、渡邊氏の 3 名にお願いした。まずは 3 名のパネリストの方に 30 分ずつぐらい講演をしていただき、日韓両国における青年層の課題について話題提供していただいた。中藤氏からは若手技術者が抱える問題、渡邊氏からは海外プロジェクトを通じて得られた教訓およびコミュニケーション能力に関する話題提供があった。朴氏の講演では、技術士会会員の約半分を占める青年層（49 歳以下）の活動および課題に関する話題と CPD に関する話題提供が行われた。

パネル討論は 50 分程度行われた。コミュニケーションの手段と互いの制度の相違点が大きな話題であった。パネル討論では笑いもあり内容的にも良いものであった。

討論の結果としては以下のような結論が導かれた。

① 技術士としてコミュニケーション能力を身につけることは重要である。時にはアルコールの力も借りつつ、スポーツ交流（サッカー・ゴルフ等）や美術鑑賞なども利用しながら、「Open-Heart」で人と接することが大切である。

② 技術士として継続研鑽（CPD）を実施することが必要である。継続研鑽は人から強制されるものではなく、技術者自身が自らの能力を向上させるために自主的に行う活動であり、そのような活動を通じて技術者の社会的地位を向上させることに寄与していくべきである。



発表風景（発表者は朴委員長）

参加者全員の集合写真（閉会時）

これらの議論は英語での発表という慣れない言語で行ったが、お互いに奮戦しつつも無事に行うことができた。その討論を行う過程でお互いの懇親を深めることができた。

第五分科会の成功のため、多大なるご支援とご助言をいただいた方々に心から感謝の意を申し上げます。

以上

青年技術士交流実行委員会 平成 21 年度活動報告

行事名	2008 年度 YAFEO 交流会
担当メンバー （〇印:リーダ）	奥田雅大〇，中藤智子
行事概要	日　時：11 月 25 日，26 日
活動内容	タイのスワンナプーム国際空港にて首相退陣を求める反政府活動展開のため，会議に出席できず，翌日緊急帰国。
成果と所感	今回の機会を通じて決して日ごろの業務では体験することのできない貴重な経験をさせていただいたと思っています。 「世界で起きている出来事は決して他人事ではない。」という緊張感を肌を持って感じることができました。 来年度は無事に日本代表団が国際交流の場に参加できることを願っています。
今後の展開	次回開催予定： CAFEO 27／YEAFEO 16 2009 年 11 月 29 日～12 月 2 日（シンガポール）

2009 年 3 月 20 日　マレーシア女性技術者交流会　参加報告

青年技術士交流実行委員会
交流会報告書作成　井口　慎也（情報工学）
報告書編集　仁田　晃人（電気電子）

【概要】

2009 年 3 月 20 日（木）夕方、マレーシアより来日中の女性技術者と青年委員会の有志で交流会を実施した。

【開催場所】

東京都中央区月島　もんじゃ焼き　おかめ

【参加者】

１．マレーシア側技術者：GROUND DATA SOLUTIONS SDN BHD 社　Director TRUDY R.GANENDRA 他２名

２．青年技術士交流実行委員会：

技術士３名、技術士補・修習技術者５名、JABEE 終了者２名　計１０名

【実施内容】

先方が、東京ビックサイトで開催中の東京国際アニメフェスティバルに参加していたため、18:00 頃、ビックサイトで待ち合わせ、バスにて月島の交流会開催場所に移動した。移動後、月島のメイン通りを少し散策しながら、東京下町の雰囲気を感じていただいた。ビルが乱立する都会というイメージとは異なる東京を肌で感じていただき、多様な文化が存在することを知っていただく良い機会となったと思われる。

開催会場は、もんじゃ焼きで有名な店舗であり、約２時間程度、もんじゃ焼き、お好み焼き等を食べていただきながら、互いの衣食住などの話で打ち解けた上で、先方が専門とする地図情報サービス、都市工学などについて話を伺った。今回は、終始英語による会話が主体であったが、参加者で堪能なメンバは一部であった。しかし参加者全員、恥ずかしがらずに積極的に英語を用いたコミュケーションを試み、また互いの文化を尊重し積極的に学び合おうとしたことで、場が非常に盛り上がった。

【所管】

日本の少子高齢化が進む中、海外の技術者と交流する機会が日常的になってくると思われる。技術者といえど人対人であり、互いの文化や個人の尊重あっての技術的協力である。今回の交流会参加を通じ、日本を訪問された海外の方々との打ち解け方、もてなし方といった、実経験でしか学べない貴重な体験を出来感謝している。

以上

その他の活動

青年委員会サーバ構築報告

担当委員
石関　学

1　概要

青年委員会では、今年度から独自のサーバを構築した。これに至った経緯としては、テクノツーリズム活動の情報アウトプット方法の検討から始まったことであるが、結果としてはメンバー間の情報共有方法が改善され、メーリングリスト依存だった運営委員会の出席管理などについては、サーバで実現できるようになった。

今後は情報管理の考え方を導入し、さらに運用方法を改善していく必要がある。

2　本活動の目的

青年委員会活動にサーバを取り入れた目的として、大きく下記 2 点を挙げることができる。

① テクノツーリズムページの構築

② 情報共有の改善

3　本活動の担当者

本活動は、主に下記 2 名で担当した。

- 中嶋　幸宏
- 石関　学

4　本年度の活動内容と効果

① テクノツーリズムページの構築

本活動は、テクノツーリズムの情報アウトプットの実現手段として独自のホームページを構築したいという考えから派生したものである。

テクノツーリズム活動については、「テクノツーリズム活動報告」を参照のこと。

② 情報共有の改善

現在まで、委員会メンバー間の情報のやりとりについては、メーリングリストを主として活用していた。よって、膨大なメールがやりとりされることから、メールの読み忘れやデータのやりとりが発生していた。

本活動で青年委員会のサーバを導入することにより、メーリングリストで実施していた下記の作業については、独自のウェブサイト上（http://www.youngengineer-jp.net/ 図 1 参照）で実施できるようになった。

- 各イベントの出席管理（委員会メンバーのみ）
- 共有作業スペースでの作業（意見交換、ドキュメント作成など）

  本年度の活動の中でも最大規模のイベントであった 50 周年記念イベントについては、準備段階から活発な意見交換がなされた。発生するドキュメントについても、各人が共有作業スペースを活用し、作成することができた。

図 1：トップページ

尚、本活動の担当者が実施した活動としては、下記が挙げられる。

- サーバの選定
- 操作方法（チュートリアル）の作成
- 委員会メンバーのアカウント作成と配布・管理

本活動に対しては、委員会メンバーからの下記のような意見が集まった。

- Web 接続さえ可能であれば、どこからでもログインできるため、データの持ち運びをする必要がなくなった
- 他メンバーとの共同作業がスムーズになった（メールと比較して）
- アカウントが必要なので、ある程度の機密性も保たれるのでは

5　収支関係

※下記は、テクノツーリズム活動と併せた金額である。

① 収入　　なし

② 支出　　5,980 円

- ドメイン更新代（～2010.4.21）　980 円
- サーバ更新代（～2010.5.7）　5,000 円

6　来期への課題

来期への課題としては、下記が挙げられる。

① データ管理・リリースの方針検討

運営委員会議事録、例会活動報告、写真データ、各種ドキュメントデータの管理、情報公開方法などを検討していく必要がある。

② 各人の活用度合いの差

サーバの活用度合いには、メンバーによって差がある。全てのメンバーが積極的に活用できるように改善していく必要がある。

以上

月刊技術士通巻 500 号記念企画への協力

広報委員会による月刊技術士通巻 500 号記念企画において，下記 2 テーマに協力した。

青年座談会

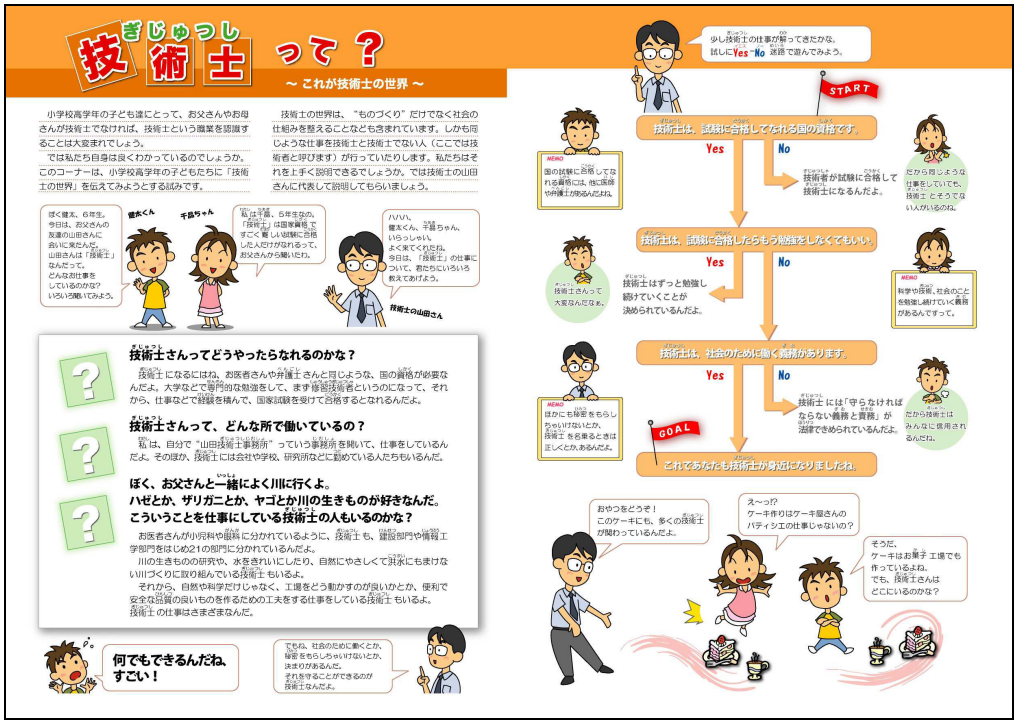
座談会メンバーの人選に協力した。メンバーは，30 代，40 代，50 代の会員から選定した。

- 青木ゆかり（情報工学部門／総合技術監理部門）
- 小村　徹（建設部門）
- 桂　利治（建設部門／総合技術監理部門）
- 坂本恵一（化学部門）
- 仁田晃人（電気電子部門）
- 平松明子（環境部門／建設部門）

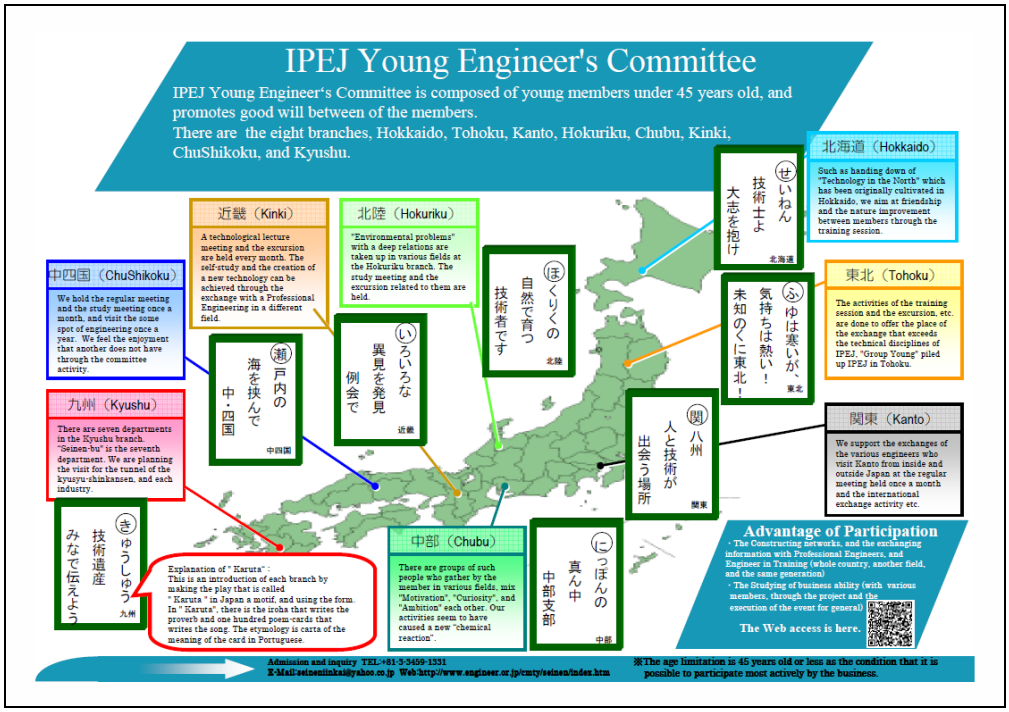
テーマ：「プロフェッションとしての技術士」
日　程：6 月 29 日（日）13:30～16:45
場　所：中央区立産業会館　第 2 集会室

パンフレット「技術士さんって？」

青年委員会および青年会員有志により，パンフレット作成に協力した。小学 5 年生に技術士を説明する試みを通して，技術士について今一度考えるきっかけとなった。



以上


IPEJ Young Engineer's Committee
IPEJ Young Engineer's Committee is composed of young members under 45 years old, and promotes good will between of the members.
There are the eight branches, Hokkaido, Tohoku, Kanto, Hokuriku, Chubu, Kinki, ChuShikoku, and Kyushu.
北海道（Hokkaido）
Such as handing down of "Technology in the North" which has been originally cultivated in Hokkaido, we aim at friendship and the nature improvement between members through the training session.
東北（Tohoku）
The activities of the training session and the excursion, etc. are done to offer the place of the exchange that exceeds the technical disciplines of IPEJ. "Group Young" piled up IPEJ in Tohoku.
関東（Kanto）
We support the exchanges of the various engineers who visit Kanto from inside and outside Japan at the regular meeting held once a month and the international exchange activity etc.
中部（Chubu）
There are groups of such people who gather by the member in various fields, mix "Motivation", "Curiosity", and "Ambition" each other. Our activities seem to have caused a new "chemical reaction".
近畿（Kinki）
A technological lecture meeting and the excursion are held every month. The self-study and the creation of a new technology can be achieved through the exchange with a Professional Engineering in a different field.
北陸（Hokuriku）
"Environmental problems" with a deep relations are taken up in various fields at the Hokuriku branch. The study meeting and the excursion related to them are held.
中四国（ChuShikoku）
We hold the regular meeting and the study meeting once a month, and visit the some spot of engineering once a year. We feel the enjoyment that another does not have through the committee activity.
九州（Kyushu）
There are seven departments in the Kyushu branch. "Seinen-bu" is the seventh department. We are planning the visit for the tunnel of the kyusyu-shinkansen, and each industry.
Explanation of " Karuta" :
This is an introduction of each branch by making the play that is called " Karuta " in Japan a motif, and using the form. In " Karuta", there is the iroha that writes the proverb and one hundred poem-cards that writes the song. The etymology is carta of the meaning of the card in Portuguese.
Advantage of Participation
・The Constructing networks, and the exchanging information with Professional Engineers, and Engineer in Training (whole country, another field, and the same generation)
・The Studying of business ability (with various members, through the project and the execution of the event for general)
The Web access is here.
Admission and inquiry TEL:+81-3-3459-1331
E-Mail:seinenlinkai@yahoo.co.jp Web:http://www.engineer.or.jp/cmty/seinen/index.htm
※The age limitation is 45 years old or less as the condition that it is possible to participate most actively by the business.

（表）

National Convention
In FY2008 the 4th subcommittee meeting (for young engineers) in Matsue was held. An opportunity to exchange opinions was provided. In FY 2009, it will be held in Sendai.
Seminars and Lectures
Seminars and lectures has been strengthened since the late FY2007. Regular meetings of the business skill improvement and international exchange, and fun events like beer parties and futsal practice are held once a month.
Branch Exchange & Annual Meeting
YEC Annual meeting is organized at Tokyo in June. Activities of each branch are reported and the YEC's future vision is discussed and agreed. In addition, mutual participation of the event for each branch are executed. In FY2008, we had a small discussion on science education and international exchange with an engineer from Australia.
The 50th Anniversary Rally
FY 2008 was the 50th anniversary after the organization of Young Engineers in IPEJ has started its activity. The commemorative event was held in National Museum of Emerging Science and Innovation to look back on a current YEC activity, and to face it in a new age in February, '09."Succession of technology and warning to the future"～Lessons learned from our seniors, and messages to future generations. ～114 participants were gathered and enjoyed the lectures and panel discussion.
Techno Tourism
We introduce the traditional industry and technology trends in which the regionality is made the best use. This will serve for providing engineers of information to be used as a guide book. An activity available is promoted as a place for the science education, the engineer's topic offer, and the human exchange.
International Exchange Activities
CAFEO/YEAFEO
International exchange with young engineers from ASEAN countries every year through CAFEO (Conference of ASEAN Federation of Engineers Organizations) & YEAFEO (Young Engineers of AFEO). Using the human network, we are expanding our counterpart for international exchange.
Exchange with South Korea
The PE conference between Japan and South Korea has been held for 38 years. Since 2005, young engineers from both counties have been playing friendly football match during the conference. Last year the conference was held in Niigata, Japan. This year it will be held in Inchon, Korea.
Exchange with Australia
We have started the exchange with 'Engineers Australia' since 2006, Australia-Japan year of exchange. In 2007, the two young IPEJ engineer visited Australia. Last year an engineer from Australia visited Japan. We are continuing mutual exchange.
Exchange with Hong Kong
In 2007 the several young engineers from ICEHKA (Institution of Civil Engineers Hong Kong Association) participated in our field tour and the technical seminar. Last year three young IPEJ engineers visited Hong Kong and experienced technical tour and exchange meeting with young ICEHKA and HKIE (Hong Kong Institution of Engineers). This year meeting with Hong Kong engineers will be held in Japan.
The Exchanging by Using the Information Technology
The Meeting by Using the Internet
Each branch holds regular meetings and seminars every month. We try to share the activity held by each branch through Internet. More events will be shared from next year.
Web log & Web site
Our web log & web site are here. ! !
http://www.engineer.or.jp/cmty/seinen/
http://blog.goo.ne.jp/seineniinkai (Japanese Only)

（裏）

メンバー紹介

青年技術士交流実行委員会

No	役職	部門	氏名
1	委員長	建設	田村 裕美
2	副委員長	建設	松本 正人
3	副委員長	情報工学	中嶋 幸宏
4	委員	建設、総監	新井 靖典
5	委員	建設	倉井 真里
6	委員	建設	井上 譲
7	委員	電気電子	内藤 竜治
8	委員	上下水道・総監	五座 由洋
9	委員	機械	中嶋 秀朗
10	委員	化学	根本英俊
11	委員	環境、建設、衛生、総監	松嶋健太
12	支部委員・北海道	建設	椿谷 敏雄
13	支部委員・北海道	建設	丹治 和博
14	支部委員・東北	建設	佐々木 貢
15	支部委員・北陸	建設	齋藤 真晴
16	支部委員・中部	建設	濱田 常雄
17	支部委員・近畿	建設	大氏 正嗣
18	支部委員・中四国	上下水道	中田 圭吾
19	支部委員・九州	建設	山田 信雄
20	支部委員・中部	建設	幡野 貴之
21	担当委員	電気電子	今野 明
22	担当委員	電気電子	石関 学
23	担当委員	経営工学	鈴木 史人
24	委員補佐A	建設	渡邊弘毅
25	委員補佐A	機械	斎藤 稔
26	委員補佐A	電気電子	仁田 晃人
27	委員補佐A	経営工学	宮本忠博
28	委員補佐B	農業・応用理学	栁澤 剛
29	委員補佐B	化学	長内 沙織
30	委員補佐B	建設	鈴木 圭司
31	委員補佐B	情報工学	井口 慎也
32	委員補佐B	上下水道	西角井 造
33	委員補佐B	化学	町野 素久
34	委員補佐B	化学	渡邊　春菜
35	委員補佐B	化学	中藤　智子
36	委員補佐B	化学	平原　賢志
37	委員補佐B	機械	山地　真吾
38	委員補佐B	環境	奥田　雅大

委員補佐A:技術士
委員補佐B:技術士補，修習技術者

2009.5.31現在

青年委員会活動のアルバム

2008年6月

2008年6月28日
拡大運営委員会・豪州交流

2008年8月

2008年8月9日
フットサル練習会 in 高崎

2008年8月23日
香港訪問・若手技術者交流

2008年９月

2008年９月28日
日韓親善サッカー

ウェルカムパーティー

2008年10月

2008年10月４日
樹木医による公園散策ツアー

2008 年 10 月 17 日
全国大会・青年二次会

2008 年 10 月 18 日
全国大会・本支部会議

テクノツーリズム

2008 年 12 月

2008 年 12 月 20 日
国際交流成果発表会

2009 年 2 月

2009 年 2 月 1 日
50 周年記念大会終了後

2009 年 3 月

2009 年 3 月 20 日
マレーシア来日交流

青年技術士交流実行委員会　活動年鑑　Vol.4
2009 年 6 月 27 日　発行

社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan